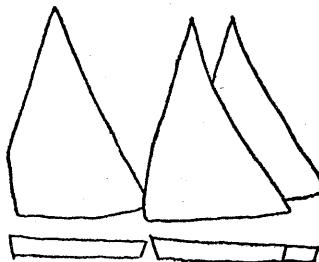
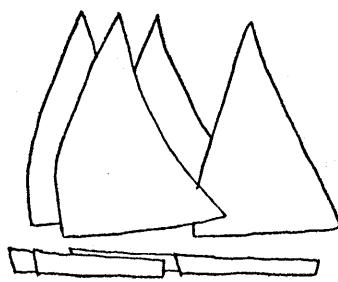


琴風

創刊号

長崎大学ヨット部

琴風



創刊号 • 1962-7

琴風

号次 刊創目

表紙題字

長崎大学学長 北村精一

彦永 森
雄南 阿

集編
口絵・装幀

創刊に当りて 菊谷元資

風の呼吸 寺田 弘
福大ヨツト部の現状 水上邦臣

ヨツト懐旧談 高巣寿一

海坊主からの便り 嶋長陽一

退屈な話 谷田健郎

座談会 ヨツト部を語る

24

12 16 7

5 2 1

ヨツトに於ける人間形成 九富勝美

村田富士夫

マネージャー日記

矢野右人

長大さんはおとなしすぎる

九富勝美

マネージャー日記

矢野右人

九人の女性とヨツトマンたち

九富勝美

マネージャー日記

矢野右人

フィンに乗つて

矢野右人

スキッパー野郎のカルテ 江上徹也

矢野右人

37

18 41 77 22 3

「風」ト「イルカ」ト「ヨツト・マン」

谷 雄策

ヨツト部あれこれ

長谷川勝也

私は神崎の松の木

鹿島孝治

ヨツト部七つの愉しみ

阿南貞雄

強風に賭けて想う

渋谷統寿

文学少年ヨツトマンになる

林 克也

ヨツト部症候群

八木 治

ヨツト部

74 72 69 63 59 53 52

女子部員の記録

増田 温美

一年部員の抱負

田辺 満子

早く言いたい「スター・ボーイ」

垣内 恵子

ヨツト部愛唱歌集

71 62 55

ヨツト教室 ウエザーヘルムとリーヘルム

矢野 右人

琴風会会員名簿

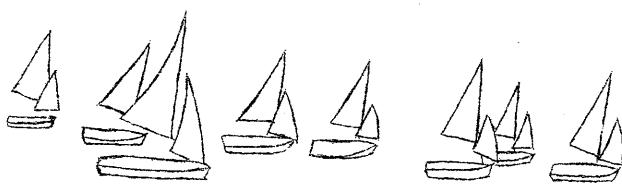
.....

長崎大学ヨツト部現役部員名簿

.....

西日本インカレ成績表

.....



小 加 緑 平

傾斜する蒼空を断つ白い幻想
とそれを支える男の腕

清明なガラス細工の海は

幽かに青味を帯びた破片となり
クル一の胸を濡らす

その清明な思慕と

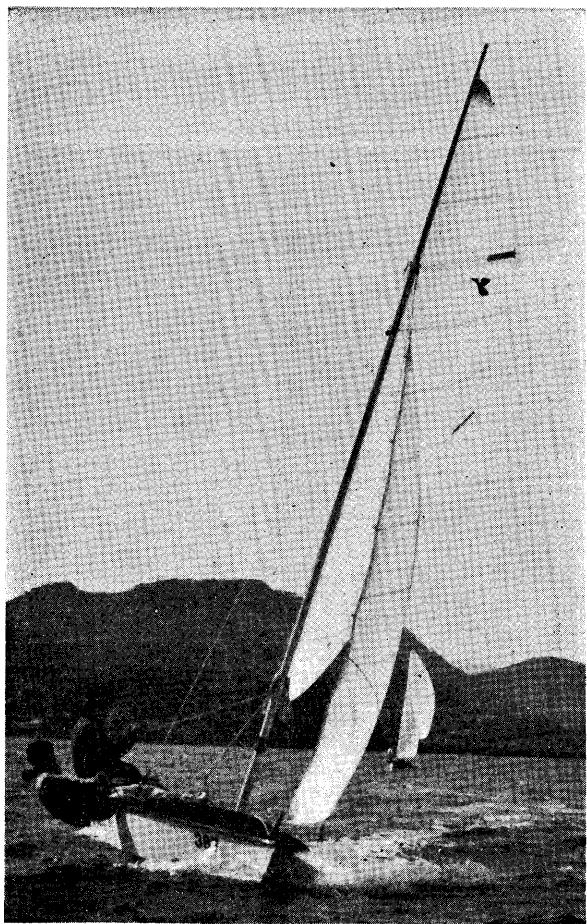
ひやゝかな哀しみの散乱

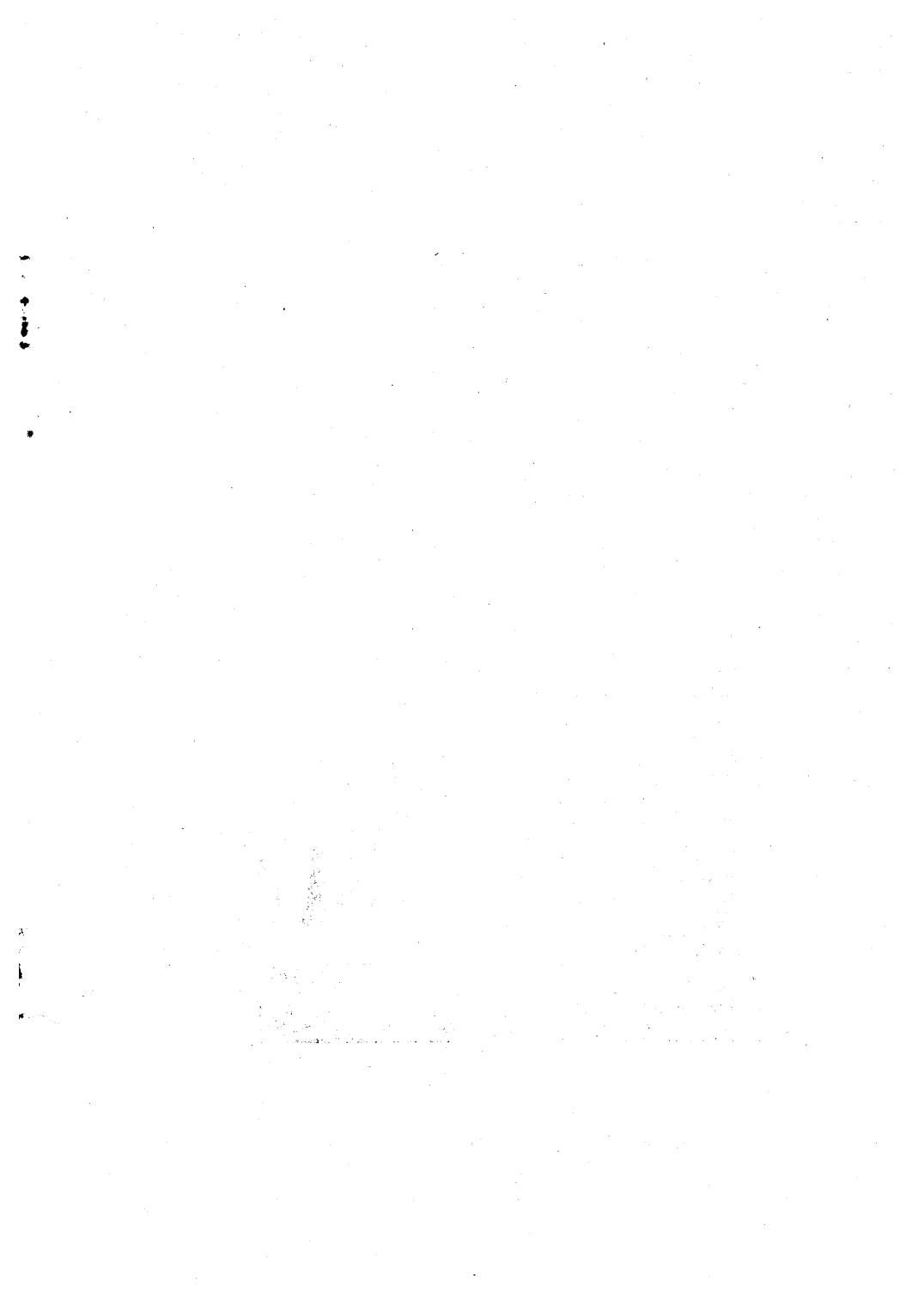
あるいは

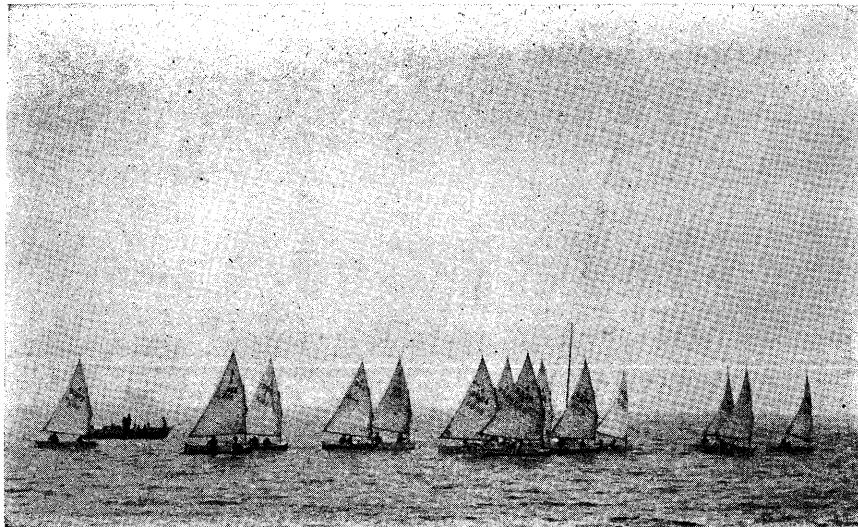
マーカの旗

あるいは

陽にかがやく海原







創刊に当たりて

菊谷元資

(長崎大学ヨット部部長)

長崎大学ヨット部が発足したのは昭和廿八年である。以来、部員諸君と相携えて長大ヨット部の発展に努力して來た。十年後の今日、所有艇も十隻を数え、レースに於ても一隻の所有艇もない部結成の翌廿九年鹿児島での九州インカレに出場した当時に比べて格段の進歩をとげ九州水域ではオーワン位をねらう程の実力を具える程になつて來た。誠に感慨無量である。先年O.B.及び現役諸君が相計つて琴風会を結成し、お互の親睦をはかると共に一層ヨットマンシップを練磨することになつたのはまことに慶賀に堪えないものである。この度更にその機關紙「琴風」が発刊されることになつたのは正に當を得たもので発足以来僅か十年足らずの内に、凡ての態勢が整つたわけで、O.B.及び現役諸君のヨットへの情熱がなみならぬものであることを証拠であると誠に喜ばしい限りである。

願わくば琴風会及び「琴風」の一層の發展を切に祈り、諸兄姉の御援助を切望する次第である。

風の呼吸

寺田 弘

(長崎大学学生部次長)

三好達治の古い作品「土」という短かい詩がある。

蟻が

蝶の羽を引いて行く

ああ

ヨツトのようだ

僅か四行のこれだけのものだが、妙に記憶に残つてゐる。真夏のギラつく太陽の下で、焼けた土の上を蟻が真正い蝶の羽を引っぱつてゆく。ただそれだけの情景だが、ああヨツトのようだと放つ作者の素朴な感嘆の声が、一服の清涼剤となつて印象的だ。

私は東北の山国に育つたので、ヨツトについてはこのような観念的な知識きり持ち合せがなかつた。絵画や写真で見る夏のシンボルのようなヨツトも、焼けた土の上

を這つてゆく蝶の羽の方が、はるかに私には実感としてヨツトらしく迫つてきた。なぜなら本物のヨツトを見たことがなかつたからだ。ましてヨツトの型にいくつもの種類があるなどということは、ついこの間まで知らなかつた。

私が始めて蝶の羽のイメージから脱皮できたのは防州の館山海岸だつた。十数隻のヨツトが風を切つていた。そこで始めて私は知つた。爽快な夏の魅惑をはつきりと掴んだ。教育大学の学生がお乗りなさいといふ。不安定な恐怖心が先にたつて躊躇したが、無理に乗せられた。陸地を離れると子供のように郷愁が押し寄せた。しかしそれも東の間で、風をはらんだ帆がしぶきをあげて波を切ると、スリルとスピード感が私を包んでしまつた。恐怖も郷愁もどこかに素飛んで、陸地から遠く離れれば離れる程、海辺でうろうろしている人達が哀れに見えるような優越感にひたつた。生きもののように風が呼吸する。それを巧みに利用する。人間の知恵と自然の斗いだ。弓なりになつて重心をとる。白い帆となつて自分も波を切

る。自然の中の孤高。蝶の羽は私だつた。

それからも度々ヨットに接することはできた。沼津の

三津浜や富士五湖や、琵琶湖や、広島の宇品や宮島や、

そして時津の琴の海と。そのたびに私は風の不思議な呼吸に魅せられた。時には息をとめた風に切花のようにしれたり、時には猛々しく吠え狂う獣のように白い波の牙を剥き出したり、時には乙女のように感傷に沈んだり、そしてそれはヨットの意志ではなくて全く風の一方的な戯れにすぎないのだ。

この間ヨットが転覆して新聞沙汰になつた。風まかせのヨットが転覆することに不思議はないが、それに勝る技術の鍛錬は必要だ。時には人命にまで危害が及ぶとあつては、細心の注意が必要なことは云うまでもない。いま時津のヨット艇庫の移転問題にぶつかつている。良い環境に素的な艇庫を作つて、蝶の羽をたたんだヨットを收めることが、眼下の私の夢である。

ヨットに於ける人間形成

九 富 勝 美

(長大ヨット部主将)

大学生活をいかに過すか? 又一体大学とは何を学ぶと

ころか?

これに答えてある先生曰ク「大学で教える講義、又そ
こで得る知識と云うものは長い一生を見れば非常に微々
たるものである。又その様な知識はある程度は通信教育
なり又独学で得る事が出来るのである。それでは大学の
意義は・・・それは人間形成に外ならない。その為には
クラブ活動と云うものが非常に大きな意義をもつてくる。
即ち団体生活を通じ、競技を通じて一個の人間と云うも
のが出来上つていくのだ」

もちろんこの様な氣持でヨット部に入部したのではない。唯何となくヨットと云うものそして自然と云うもの

に憧れて入部したのである。丁度今から五年前、デインキーに乗つて「タツクリ」と云われると唯無中でガンター・ラインを引張つていた自分がありありと目に浮ぶ。ジャップも出来ないでデインキーに乗つて沈したのもあの頃だつた。当時主将高巣キヤツブから云われた事が、年数がたつにつれその真意が胸にひしひしとせまつてくる。

「ヨットは他のスポーツとは根本的に異つている。即ち自然を相手のスポーツである。例えば柔道などで、自分はもう駄目だやられたと思えば、参つたと云つてタタミをたたけばそれですむ、所が強風の中を冲に出て自分の力の限界を感じ駄目だ、参つた!と云つてヨットのデッキをたたいた所で強風はやんではくれない」

何となくロマンティックな気持を抱いて入部した自分が恥かしくなる。年数がたつにつれ諸先輩の云われた言葉の真意が解りかけてきた。又ヨットそのものに対しても愛情を感じ始めたのも近頃になつてからだ、彼女は俺にとっては心ある一つの生きものだ。俺の心を実に良く見極める、心に乱れがある時などいくら走らせ様と努力しても

駄目だ。どうしても思う様に走つてくれない。尚も走らせ様としてみると彼女は唯悲しそうにその純白のセールをシバーさせている。強風の時俺は必死になつてヒールを殺して大自然に戦を挑んでいく。俺はクルーの気持を知り、そしてクルーは俺の気持を理解しあ互に無言のままはげまし合う。ぴつたりとくつづけている体を通じ、ひふを通じてその気持が伝つてくる。このお互の気持のぶれ合が彼女にも解るのであろう。彼女は快く協力してくれる。リギンはうなりマストは今にも折れんばかりに曲つていて、そしてその美しいバウを荒浪の中に突込んでいく、激浪にたたかれようとも尚もつき進んでいく、シートの一本そしてシャツクリピンの一本までが生あるものの如く大自然に立向つていて、この三つが一つになり始めてヨットと云うものが快走し、そして大自然に挑む事が出来るのだ。俺達は大自然を眼前に見、そして己の体でこれと戦つていて、少しの手落もミスも決して許されない。この偉大なる瞬間、そこに於て得られる冷静な判断力、敏捷な行動、これらは全て体をはつて得たも

のである。そこに一個の人間と云うものが形成されるのである。

(寄稿)

やがて厚い雲がちぎれ、その隙間からぼつかり太陽が顔を出す。たけり狂つていたあの強風もやや鳴りをひそめる頃俺はクルーと顔を見合させてニッコリほほえむ。ああ！この強風を乗り切ったのだという征服感からくる喜びであろう。ぐしょぬれになつたヤツケからも

びしょぬれのデッキからも静かに水蒸気がのぼつている。

波静かに帰港する時のあの喜び、決して筆では云い表わす事は出来ない。ヨットマンのみが知る喜びであろう。

これがレースになると自然との戦いの他に人間との戦いが加わるのである。そこには人間社会にあるはつたりも

あればかけひきもある。全体力、全知力をもつてこれに望まねばならない。頭脳と頭脳の戦いが始まる。冷靜な判断力、敏捷な行動、忍耐力、そして最も要求されるのは何事にもへこたれない根性である。ここには少しの誤ちも決して許される事のないきびしい勝負の世界があるので！

福岡大学ヨット部の現状

水 上 邦 臣

(福岡大学ヨット部幹事)

九州水域各大学のヨット部に各部の現状、或は長崎大学ヨット部に対する批判など原稿を依頼したところ福岡大学から「福大ヨット部の現状」を寄せてこられた。

部結成以来三年、同好会時代を入れると四年の歳月を経た。本年及び来年を最大の飛躍の年として部員一同、日々練習に励んでいる。九州における各大学のヨット部と違い、我が部は歴史が浅く、伝統の力というものがない。この歴史及び伝統を早く創らねばならない。なぜなら、現在までの試合において、歴史の浅さに負け、伝統の力に泣いた試合が再三あつたように思われる。

本年は新入部員が例年に較べ非常に多く、有望な新人が入つた。将来の我が部を思うとき実に頼しい限りである。しかし、将来を夢想し安心するわけにはいかない。

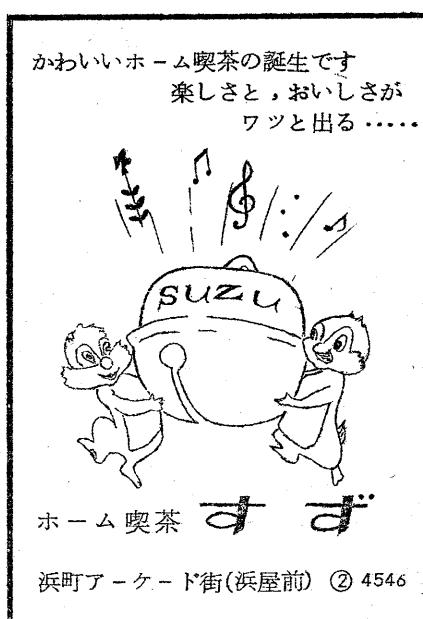
過去を考慮し、現在を考えねばならない。

我が部は前述の如く、歴史が浅い。従つて施設が十分でない。例えば、艇数の不足、艇庫の不所持、人材の不足等、数えれば数限りない。これらのハンディキャップは少くとも我が部の発展を阻害している。ともあれ、本年は、艇数不足に対し、デインギー、スナイプ、フイン級、各一艇建造の計画で出発し、現在、デインギー一艇、フイン一艇の購入を完了した。スナイプも今年中に建造されるることは必至である。特に、フイン購入は九州水域初の購入なので實に喜ばしいことである。購入に対し学校側の援助に感謝しなければならない。又、艇庫に関しては、今秋中に建立されるとか聞く。これらの施設が完備されるとき我々に残されるものは精神的、技術的なものだけである。

今までの我が部は精神的、特にチームワークのとれた

部とはいひ難く、また、決して技術に秀れた部でもなかつた。これら、部の弱点を是正せんがため、討論会、あるいは、部員総会等を開き、弱点を正に努力している。以上とりとめもなく述べてきたが、これら総ての要素が完成されたとき、福岡大学ヨット部としての歴史、伝統が創り遂げられ、そこから、福岡大学ヨット部の強さが現れ出るであろう。

この現出は、そう、遠い日もあるまい。



ヨツト懐旧談

高巣寿一

(福岡市魚市場KK勤務)

海賊・カツ・ライ・・・無法者先輩の体験談

長崎大学ヨツト部も他大学に肩を並べて部誌を発刊する程充実して来たかと思うと無量の感がある。そこで創刊するあたりヨツト懐旧談なる拙文を編集氏にボツされぬのを願いつつ寄稿する次第である。

私が、二十九年頃中ニキビをあらさげセイウンの志を

抱き海などと縁がない片田舎より長大ヨツト学部へ入学した当時は、青い灯・赤い灯にさんざめく天下の丸山も石畳をぬつて流れるせせらぎに情緒も深く、傾城の投げる・・話がそれた様である。つまりその当時はヨツトが無かつたのである。ヨツトも無いのに何故入部したのかは今考へても解らぬが、多分教養部が大村より現在の地へ移転した年であり、ヨツト部の名だけを先ず作る為に當時医学部四年の鷗長氏が音頭を取り部員獲得に

躍起となりそのプロポーズに参ったのかも知れぬ。今でこそ彼鷗長氏は引退し産婦人科を繼がねばならぬサダメとは云え、ヤブ医者ならんと女体をいじくりまわして居るが、ヨツト部が現在あるのは当時彼のヨツトへの情熱に他ならぬものである。

新入部員四、五人を含めて十人も居つたらうか、毎日放課後（この頃は講議が珍らしいのと、学友に我が存在を認めさせる顔つなぎの為によく教室で末席をけがしたものである）部員を集め、黒板にヨツトの圖を書き、せつかく入れた部員に逃げられまいと『これがセール』『これがステー』と涙ぐましきものがあつた、センターボードの役目などはどうなずけたが、風上に向つて挺が走る点になるに至り、とんと合点がいかず、ヘトが豆鉄砲を駆

つたみたいな顔をしていると、彼とて物理的な説明をする

校を素通りして通いつめたものである。

る事も出来ずただ笑つてごまかすと云う苦しい教授ぶりであった、技術面での指導では一応ごまかせたが、本命のヨット建造費の出にはひとかたならぬ苦労をしてい

レースをしようにも相手が居らず、時々附近のチャツカーを相手に、強風下ランニングで潜水艦もかまわづファイトを燃していた。

た様である。運動会でのバザー、ダンスバーティと企画し、我々一年部員はその都度パンを売り、なげなしの利益に小踊りしたり、下足番をしては美男美女のタンゴのステップに指を喰えてヨットを待つたのである。ヨット部の顧問菊谷先生の御骨折などあって、難産の末やつと入学以来六ヶ月目、九月に現在かえりみられもせず老の身をかこつているデインギー一世嬢が誕生したわけである。

当時彼女は実に魅力的であつた。ライバルも居らず、純白の身体を琴海の波間にくねらせる様は、我々不辨な野郎共をして学校をサボらしめる原因は充分にあつた。しかし彼女は、ちよつとでも遅く行くと、呼べどかえせど冲から帰らぬと云うツメタイ面も持つていた。そこが又魅力とも云うべきか、一パイだけの悲しさ、早朝より学

やはりそれだけではあき足らず、対岸のミカン・イモを相手に海賊と化した。現在五島でハナタレ相手に何をまちがえてか先生稼業をしている中島氏などは特にこの道に通じ、何かとカツパライ法を伝授してもらつた。海岸での焼イモ、焼貝に口端を真黒にし、ミカンで喝きを潤す山海の珍味に舌鼓を打つたものである。しかしながら、ミカンもその場で喰べる分にはたいした事はなかつたが、トレパンの足首をヒモでくくり、ガニ股よろしくその中につけ込み、その上大型ボストンバッグで運び去ると云うプロ化するに至り、獵銃で追われ、学校への勧告などで楽しみの一つが消え、それ以後、山金部を黄色く色々つたミカンを横目で見ながらタック・ジャイブと練習に励んだ。如何なる条件のもとでも救助艇なしの一パイだけと云う状態であつたので、練習にも自然身が入り、

かなりの強風をこなすことが出来るようになるにはそう時間はからなかつた。しかし、レースの点になると、自分が理想的な状態で走つてゐるのかどうかさっぱりわからず、せめてもう一ペイでもと、チャッカーを追い越してはウップンをはらしていだ。

この頃より大学本部の予算をつづいても、らちがあかず、しかば別の方法でヨットを作らうと、三菱造船所の同好者と大学ヨット部が主体となり、当時長崎県交通部長の職にあつた田中氏を会長に、三十年春長崎ヨットクラブを結成した。各会社団体より寄附をおぎ四国の国体で使用されたデインギ四、スナイプ四を購入し、部員一同その時の感激は忘れられないものと思う。長大、三菱以外からも佐世保のSSK、水産試験所、銀行などより幾人かは入会したが、主として大学、三菱で会を運営した。クラブの艇庫を最初長崎港の入口にある女神の検疫所にし、スナイプはトラックで、デインギーは稻佐橋より出て港内帆走で運ぶ事にした。交通の激しい港内でのジグザグコースの帆走は海上法で禁じられているのは承

知していたが、オーリングで河口迄出ると五一・六米の風が沖より吹いていた。この風でエツチラオツチラオリングする馬鹿な奴は居るまい、巡視艇に捕まる迄は帆走しようと協議一決、始めて見る競争相手、首を並べて必要以上にヒールさせ、折から通る五島通いの船や、対岸を結ぶ連絡船、漁船などより鈴なりにながめる観衆の中を日頃きたえた腕でタスク・ジャイブと動きのによい大型船をヒラリヒラリとかわす様はまさに爽快であつた。

三菱造船所の前に来た頃やつと巡視艇に発見され、サイレンの音もけたたましく猛スピードで追いつかれるなり、その場よりオーリングせねばならぬ破目になつた。巡視艇が曳航してくれるかと虫の良い考えを持つていたら住所・氏名・所属団体の名を控えてさつきと帰つてしまつた。それから向い風に女神迄二時間のオーリングには参つた。今なおその時の手豆の痛みが残つてゐる様な気がする。長崎港内でヨットが走つたのはこの時が始めてであり終りであろう。この件で田中会長には再三海上保安庁へ御足労をかけ始末書で済んだようであつた。三十年

の初夏であつた。この頃は部員勧誘の P.R. が効を奏して骨のありそうな才二回の新入部員が五人程入部していた。長崎港外で二・三日練習した後、都合で東望海水浴場にある網場に艇庫を移した。肥前屋なる料理屋の裏に、たよりないケチな船台が出来ており、どうやらここに落着き本格的な練習が始つたわけである。しかしながら寄合い世帯なるが故に何かと苦労も多かつた。スナイプなど一枚帆には始めてお目にかかり、儀装法が解らず、本を片手にヒタイを集めると云う滑稽な一こまもあつたが、その年の夏インカレにそなえて初の合宿練習を行つた。外洋からの大きな波と、十米を越すブローに沈艇が続出波静かな時津でつけた自信が一ぺんであつ飛んでしまつた。ルールに精通したコーチとておらず、トラブルが起ても、どちらも良さそうな悪そうな判断のまま、名島沖で行なわれた九州インカレへ初参加した。八一九メートルに玄海特有の荒い波ではあつたが、合宿でつけた腕にものを云わせ、前後でおもしろい程沈するヨットを尻目にどうやら全レース無事にゴールインした。最終レース

などは、又もビリかと四苦八苦ゴールインしたら沈艇、故障艇が多く二位になつていて。それ程各校とも未だ未熟であつたわけである。この初参加が我々にとつては貴重な経験となつた。この間大学本部に対し何の働きかけなかつたわけではない。やはり大学自体の艇を持つべく、連日、学長・事務局長・補導課長と面談、さらやかながらもデモをかけていた。

長崎ヨットクラブも出だしは順調であつたがヨット購入費の残額支払・維持費に支障を来たしついでにデインギーのみ四ハイを三菱造船所へ身売り、三菱からの会員は脱会、別に三菱造船ヨット部が長大の好敵手として現在の大草に生まれたわけである。

三十年九月、艇庫管理を預る肥前屋が、前から色々不満はあつたが、自分の客をもてなすのに商売用としてヨットを使用し始めるに至り、それでは長大の艇庫で預りましてようと時津へ運び、どうにか艇庫の体裁を整える迄になつた。

三十年十一月、オ一回の大村湾ヨット選手権大会を大村

で開いた。三菱造船ヨット部対長崎ヨットクラブではあつたが、実質的には、三菱社長であり、その時は軽く押された様であつた。その後長崎ヨットクラブも衰微をたどり、三・四人いた会員も段々遠ざかり、艇の維持も殆んど大学予算でなし、長崎ヨットクラブも有名無実となつた。しかし今ある古いスナイプ三バイは長崎ヨットクラブに属し、名だけとは云え今なおクラブは存在しているわけである。

三十一年秋、初の大村湾一周クルージングを行つたが、不幸にして最後の日、台風に見舞われ一バイが遭難する不祥事件を引き起し、大学始め各方面に大きな迷惑をかけた。創始期のヨット部にとつてこれは手痛い黒星ではあつた。この遭難記は八幡市役所に勤務している高橋氏が寄稿する予定故省く事にする。その後、始めのうちは大学本部よりかなりの反感を買つたが、結果的にこの遭難事件がヨット部を大きくクローズアップし、先輩諸氏の尽力もあつて、段々と認められるようになり、デインギー、スナイプの新艇が続々と迄はいかぬが時津の海に

しぶきをあげ、後輩諸氏の努力のかいあつて、インカレでも恥かしくないレースを展開出来る程の現在に至り、今夏八月十四日にはO・B一同時津に集い、『琴風会』と称するO・B会を結成する迄に発展出来た事は喜ばしき事である。

各式 一品用船種各

長崎式株品用船会社

長崎市五島町30

T E L (2) 7161

退屈な話

谷田健郎

(長大医学部大学院才二病理)

少
年

ながい橋を渡ると、これは長い、長い、ながい一本道であつた。緩い傾斜が砂浜に続き、それは静かな海の小波に洗われていた。セイルをたんだ艇は、思い思いの肢体をその砂浜に横たえていた。もはや彼女等は自覚めてはいたけれど、いつもの癖で、ひつそりと渡つて来る微風に目を細め動こうとはしなかつた。

浜辺から道へ登りつめた処に、ひとりの少年が立つていた。褐色の裸体を破れたシャツと短いズボンが包み、それからはみ出したしなやかな四肢と、ほつそりした首とを彼は持つていた。腰にロープを巻き、濡れた足は砂にまみれていた。日に灼けた肌が、少年を一層可憐に見

せてはいたけれど、彼が、此の浜で私が最初に目にしたヨットマンであつた。

少年は海に背を向けて屹立していた。彼はティームの人々の到来を待つてゐるのかも知れなかつた。それとも朝風の鳴きに耳を傾けていたのだろうか。彼の頬を過ぎる朝風は、ヨットマンのデリケイトな心にだけ捉え得る程のものであつた。それは嘆きのように微かな抑揚と、

オゾンの青味を帯びた体臭を持つていた。

波打際で一群れの人々が身体を動かしていた。それは忙し気にも、またひどく緩慢にも見えた。閑散とした朝の浜でそれらはしかし或る律動を持つてはいるのだつた。けれども、海の拡がりと、砂辺に置かれた艇と、まばら



な人影が構成する風景は、ひどく荒涼としたものに見えた。そんな中で、ようやくテントはたてられようとしていた。

波打際の群れの中から、一つの高い声が陸に向かつて投げられた。それは先刻の少年に向けられたものであるらしかつた。私が彼に視線を移した時、声は途中にそれてしまつたに違いない。少年はやはり海に背を向けて立ちしたまま動かないのだつた。二度、三度と高い声は送られたが微風はそれを少年の處まで運ぶのを拒んだようだ。明らかに彼等は艇を水の中に入れようとしているのであるが、その一群れは、他の人々から少し離れていて、その艇を動かすには少し手が足りないのであつた。私が荷を置き、彼等の中に加わつた時、彼等の一人は、再び高い声を陸に向かつて投げた。私達は彼をあきらめ、艇へかけた手に力をこめた。しかし、最後の声は少年の耳に届いたらしかつた。少年の遠い声を海と波打際の人々は聴いたけれど、人々は今は振り返る事をせず、掛け声は艇を水に近付けつつあつた。すると私の傍にしなやかな手

が掛け、私の負担は軽くなつたが、私もやは少年をかえり見ようとはしなかつた。飛沫がズボンを濡らし、私は艇から手を離して立止まり、少年が全身に飛沫を浴びて勢いよく躰を海の中に沈めて行くのを見守つた。

腰まで海の中につかつた少年は、振り返りざま、皓い歯を見せて誰れにともなくニッと笑つた。

人々は波打際を、次の艇へと歩き出していた。

南太平洋へ

詩人小加綠平氏は、実はシン・オカ・ロクヘイ氏と云うと比較的氣嫌がよいのであるが、實際唯も彼の詩を認めたものはいなかつたし、その作品を見せられた友人の或るものは、ラブレタアとしては奇抜なアイデアに富んでいると云い、或る者は、少年マンガの台詞としてはやや難解で、アンニユイを感じさせると評した。その作品と云うのは、せつせと穴を堀つていた或る勤勉なモグ

ラが、男性である月が、クイの娘に思いを寄せて、遂に

は彼女を天に連れて行つてしまふと云う。且つてクツク
諸島にいた事のある仲間のモグラから聞いた伝説を憶い
ながら、コウコウと照る月を眺めているうちに胃ケイレ
ンを起す。と云う甚だリツクな詩なのであつた。

多くの人々は、彼が詩を書く事も知らず、だから詩人
と聞けば、余程氣立のよい人でも、アツケにとられ、大
概の人は、中がムズムズするであろう。さて、その小加
緑平氏はセイリングにかけてはカラツキシ手下糞で、レ
ースでは寄妙な事にマークとセイルがベーゼを交してし
まい、走らぬ艇に腹を立て、エイママヨとタツクをかけ
ると、必ず、よそさんからサドン・タツクと威嚇される
始末であり、それ等の出来事はしかし、結構、レースら
しい緊張感をクルーに与えはしたけれど、それは稀で、
多くの場合には遙かに遅れて、孤独を楽しむかに見えて
実に、陸で眺めている仲間達は時計を見てはハラハラさ
せられるのであつた。従つて、彼の次に走らないと云う
のが、チームのヨットマンにとつて最も謙遜した言葉

なのであつた。

ボリネシアでは、大昔に神様が海の底から沢山の島々
をヒマにまかせて釣り上げて浮かべてしまつたものだが
ら、今でも海図はあんまり当てにならないそうである。

その辺りを彼はウロウロと帆走しようと思いついたのだから、これは恐らく、ハイエルダートルのコンティキ号の話が余程強い印象を与えたに違いない。彼はプランクトンを採集すればビタミンの不足に悩む心配はないと言ふ結論に到達し、イオン交換樹脂を用いて真水を得るプランクを樹てた。彼の知つている言葉と云えば、イ・オーラナ・唯一つに過ぎず、アワテ者の事であるから『いい、おならあ』などと云いかねないが、今更鼻をつまんでも致し方のない事で、サモアの某所では学校の傍に、日本語でちやんとり立入り禁止と云う立札が立つてゐるそ
うであるから、当人はそれ程心配はせず、スマトラ辺りにも立寄つて、マンデーリンなどと云う、最高級に属する珈琲を味わいたいと目論む程だ。

或る友人が忠告して云うには、おいロクハイよ、豚を

乗せて行くがよい。何故なら詩人オカ・ロクヘイはあまりに典雅なウツクシイ詩をカタがために、我邦の女人に夜霧のような歎息ばかり与えているが……と云うと苦虫をかみつぶしたような顔をして聞いているが、内心は甚だ嬉しかつたに違ひなく、しかし、純情なる彼は顔を赤らめ、それ程ではないと謙孫した。

さてしかし、とその友人は続けた。

『お前の美しい詩が、ポリネシア美人の胸をかき鳴らす以前に、まずお前は豚を尊長に獻じなければならぬ。何故なら豚は彼等にとつて非常に貴重な財産であり、彼

こそ唯一絶対の権力を所有し、住と食と、婚姻すらも支配するものであるからだ。お前のヨットが島につき、お前を歓迎する宴には、豚が必要なのだ。宴が続き、やがてあの夜明けを告げる鳥、グルグルガーガーの笑うが如き奇態な鳴声を聞くであろう。そしてお前は、グルグルガーガーについてのソネットを書くべきである。』

しかしながら、此の友情溢る忠告にもかかわらず、彼オカ・ロクヘイ氏は豚なぞは乗せていかないであろう。

彼は、うつくしい、心やさしい女人の同乗を嘗つては願つた事があつたかも知れない。けれども伝説によると、伝説と云うものは、コントンとして、実は何が何やら一向分らなくなるものだが、プランクトンを喰べるのはあまりゾツとしないし、それに南海の島々を廻つたにせよ其處にはデパートやオシルコではないかも知れず、刃角新調したスーツは潮水のため目茶目茶になるであろう事を察して、全ての日本女性は例外なく皆充分に美しく、心やさしいのではあるけれど、たれ一人として同乗を申込まなかつたと云う事である。

これは伝説でなく、眞実だと云うべき事なのだが、恋人などと云うものも彼に限つては全く存在した事がなく、従つて彼はその豊かな想像力にも云わせ、それは全てコウトウムケイなものかも知れないにせよ、愛らしい幻想にひたり、そのいまあじゆを満載して、出発するであろうが、アンカードを忘れずにもつて行くべきである。

海坊主からの便り

嶋 長 陽 一

(長大附属病院インターーン)

ヨット部創立以来早十年 一

桜咲く十八才の春、大村教養の高台から見下す大村湾は春霞にかすんで広く遠く西彼杵の山々は夢の如く浮いていた。

夢 そう子供の頃から三角の白帆が心の片隅にあつたのかもしれない。青春の十年間そこの大村湾のヨットで暮そうとは、神様のみしか知らなかつたであろう。子供っぽい夢、贅沢な夢、厚かましい夢であつたろうか。頃は終戦後七年未だ混頓とした社会状勢の中にあつて若者の抱く素朴な夢であつたかも知れない。

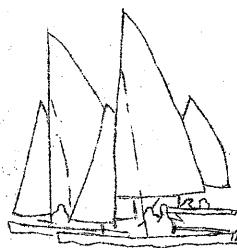
白い帆を空高く恰も巻雲をかきみだす如く白日の下にヨットが進む時、茜色の連波が船腹をたたき東の空に十五夜の月がキヤビンを照す時、或いは又、波しづきを頭か

ら被りバランスをとるのに懸命な時、激しいブローに帆がマストに巻き上げられる時、我々はそこに本当の闘志と愛情を憶えるのである。

そう、陸の上の規則ばつたそれでいて悪の横行する汚らしい世間から逃れて、全く自由なそれでいて全く恐ろしい海を求めたのである。

村田、山下、森下の諸氏らと共に一杯の相當に改築されたデインギーに乗つて頭から波をかぶりながらも放歌する気持は全く何に比較しようもなかつた。

諸君の先輩、小林氏中島氏船越氏大場氏大島氏高巣氏達の苦労はまず金作りから始つた。学友協議会では認められず、各学友会では嫌れ、補導課でも相手にされなかつたが菊谷教授を部長に迎え、一円、一円づつの苦し



い金づくりであつた。そう運動会のバザーを引き受けこのパン一個の利益が一円かとづくバンを見つめた事すらあつた。大村市役所、大村教育委員会、税務署、警察本部補導課等、足繁く何回通つた事か。ダンスパーティー、映画会、運動会の準備係、果てはグランドの草むしり迄引き受けて。

やつと出来上つた一杯八万円也のデインギーが現在最も古くなつて艇庫の片隅に置いてあるあのデインギーである。あれを大草に貨車から降され、雨の中を海岸迄運び浮ばせた時は無性に涙が流れた。

更に一年、田中喜三郎さんの援助でスナイプ四杯、デインギー四杯入つた時は、やつと多年の念願がかなえられ、九州一否日本一、いやオリンピック選手をと固く皆で決心したものであつた。

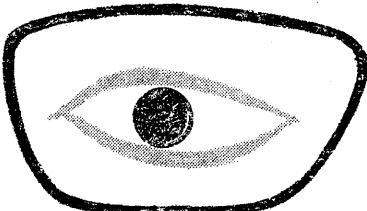
この頃から涉外係であつたヨット部員の努力も次第に報われて各学部から計四~五万の予算が採れるようになり本部補導課もようやく認めて貰う事が出来デインギー三杯購入の確約を貰つた。

その頃高巣氏渡辺氏福原氏田坂氏石川氏達が部員訓練の強化を計つて相当強い練習が始まつたのである。

天野、岩崎、田崎、高原の諸氏が当時入部し今日に致つたのである。

ヨット部員諸君、君達は最も良い部を選ばれた。有意義な大学生活に、いや青春を広々とした海に三角の白帆で四年間暮す事は人間を作る上にも、四年間得た学問より更に大切なものを得ると思う。

現代眼鏡科学の粹



コンタクト
レンズ室

アダヤ
眼鏡

長崎ビル 2 階
電③ 6151~6

更に立派なヨット部に育て上げて呉れ。これは今までヨット部を卒業して行つた先輩皆に心からの注問である。

卒業して行つた先輩諸兄・・・(今でも僕に来る年賀状には、謹賀新年、船を頼むと)・・・に報告する。

村田、森下、山下諸君現在デインギー、ナイフ、フ

イン併せて十数艇のレースは壮観だよ。

中島、大場、船越諸兄、諸兄の努力は報われ現在六十数名の大世帯、女子部員も五名も居るよ。

小林兄、来年は艇庫も改築する予定、インカレも九大鹿児島をおさえてしまつたよ。

高巣、福原、渡辺兄、諸兄が鍛えたヨット部の伝統は今でも受け継がれて増え立派なヨット部になつてゐるよ。

出来る事ならば今のヨット部員全員と卒業して行つたヨット部員、そうヨットがない時のヨット部員・・・よい先輩であつたぞ・・一堂に集つてビールが飲みたい。

フインに乗つて

九州水域オリンピック
強化合宿参加記

医四・マネージャー
矢野右人

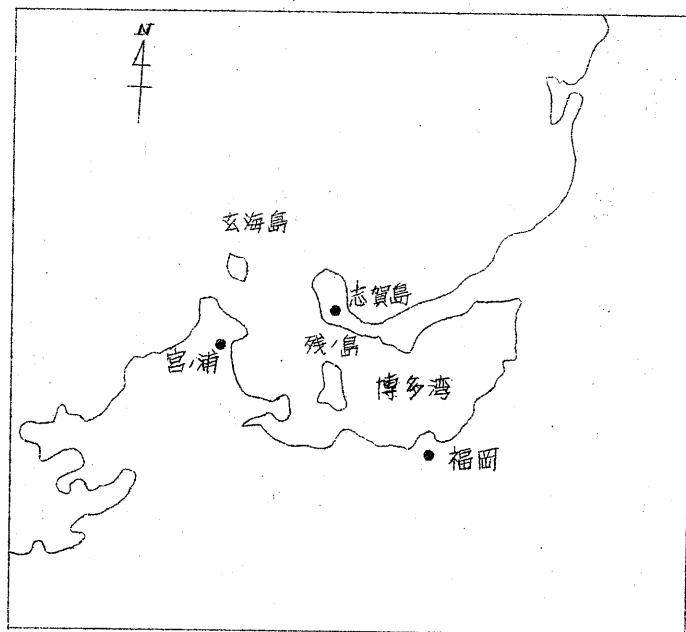
九州水域オリンピック強化合宿と云ういかめしい名前で六月八日より三日間博多湾も出口に近い宮の浦で合宿が行われた。長大より阿南と小生二人が参加したのでその様子を報告しよう。

八日十時に百道海岸に集合し西南の艇庫よりナイフ四艇デインギー二艇それに待望のフイン三艇をオツチヨイ。スナイプのみ帆走する事になり丸善石油の五〇〇五艇を纏装し十一時半に出艇、結城氏と阿南と三人で回航、三

し四米のクローナホーレド、能古島を過ぎる頃より微風となり十四時頃風になる。雲天ですこし寒い。風と云つても時津と違ひかなりの波がある。

十六時近くなり眼前に宮の浦が見えているが艇は思う様に動かない。もう腹はペコペコだ。

十六時四十五分頃ようやく目的地に「たどり着いた」と云うのがびつたり、ワインが纏装してある。腹のへつたのも忘れてワインにとびつく、阿南は昨年の国体で経



験しているが俺の方は全く初めてだ。それにワインは安东尼が悪いとかすぐにオーバーヒールするし「沈」やすいなんてさんざんおどかされているから一寸恐い様な感じだ。しかし幸い?な事に微風ときて唯れが乗つても「沈」させるには困難な風だ。初乗りの気分はなかなか良かつた。

五時半頃ようやく宿舎の「玄海」に落ち着く。眼の前に料理が出されたが今から地元側の歓迎のあいさつ、地元のオエラ方が次々に立つ、朝から何も喰つてない腹がグウグウ鳴る。九州ヨット協会よりお礼の言葉が地元側へ。腹をおさえて参加者の顔を見渡す。コーチ団として福岡相互銀行の石丸氏、R.K.Bの高田氏、全勝連の安松氏、丸善石油の結城氏とヨットと云えば先ずはお見かけする四氏、大学が西南福大鹿大鹿経大それに長大で九名西南高校二名、実業団十二名で報道関係二名と云う構成だ、ビールの乾杯イがようやく始る。自己紹介があり、勝手な事を云う者、まじめにあいさつする者等々、

ビールが入るにつれて話もはずむ。安松、結城氏は修

歓館の先輩、修歓館のヨット部談等に花が咲く。

八時より講習会、講師はまず高田氏の「体力とトレーニング」でサー・キニイット、トレーニングの必要性を強

調石丸氏もトレーニングについての話、最後に西南の庄崎君よりトレーニングの実際についての説明があつた。

これは前に調べた熱海トレーニングの反復の様なものだ。

これでオ一日目が終る。外は雨でかなり肌寒さを感じる

二日目六時に「起床」の声がかかる。雨だ、小雨の中を海岸迄走る。ラジオ体操、サー・キニイット、トレーニング、山登りと続いたが皆のんびりとして熱中してトレーニングにはげむ者は居ない。その為か気分的にだけ

て三回のサー・キニイットがきつくてかなわない。

九時半頃出艇、オーレースに入る。レースは選手をランダムに取り出し全員がフインにもスナイプにもデンギーにも乗るやり方だ。スナイプに始めて乗ると云う者も出て来る。その実レースでデンギーに乗るのは俺も始めてだ。それも一人乗りで！ 何レース目に回つて来る事やら、勝敗には皆淡白で親善レースの様なだけさ？

六時頃迄に全員一通りフインに乗りセレース行つた。

まだフインを知らないのでどの程度の「ツメ」が合理的なのか全然解らない。しかし考えていた様に不安定な船でもない。オバーヒールでは決して走らないと云う事は確かだ。小戸にスター回航に行く者をクジ引きで決める阿南が当り他二人と松本氏で小戸へ行く。雨の為夕方のトレーニングが中止になつた。

夜停電になり講習会は中止、ローソクの灯を頼りに、安松氏を囲み四・五人でルールを討論する。下手な講習より余程ために成つた。

三日目は七時起床と三十分遅れる。又雨だ、昨日のままだベトベトにぬれていのズボンにヤツケをつけて浜へ走る。サー・キニイフトが始まる。三回くり返すのはほとんど学生だけになる。今日は三レースのみでオーレースにフインが当る。スタートは良かつたが風のない所に入つて全然走らない。もうフインが集つて行うレースは当分経験出来ないと云うのに

午後地元側へお礼の意味か一般公開、運よくスターの

回航組に希望が通り小戸迄スターを帆走する事になる。ビンチング、ローリングの感じがスナイプとは全然違うしティラーの感覺が重く手ごたえがある。スナイプ乗りでスナイプしか乗つた事がない。俺にはこれ位の大きさがあつて始めてプランケットがありSLPがありサドンタツクがある「ヨット」だなあと感心させられた。小戸のヨットハーバーにアンカリング、百道で六時解散につた。

この合宿そのものは低調なもので指導の面でも筋金が入つてなかつたし統制がとれていなかつた。しかしこの合宿で得たものそれは「力のヨット」でなくてはならぬと云う事だ、力強いファイトと決断力を養成した上での頭脳プレーでなくてはならない。頭脳プレーが先に立つ。微風の時ゴマカシした様なプレーで勝敗にこだわつていては今後大型化して来るヨット界には完全に無効なものであるし、今話題のファインに於ても小型艇でありながらも、その要素を十分に含んでいるものだと感じられた。

貸 切 バ ス は

快 適 な 長 崎 バ ス で

長崎自動車株式会社

長崎市茂里町13~37 TEL ②2261
②5864

長大さんはおとなしすぎる

レースは参加するためにあるのではなく。勝ち残らずして真のレースはない。勝ち残らずして真のレースはない。ヨットマンには人と自然との二つの敵がある。なかでスはあり得ない。長大ヨットマンヨットを出せ。

水⁴

村田富士夫

クラブ活動は人格の完成を才一とする。なるほどもつともなる美辞麗句ではあるが、才三者がとやかく言つて

人格が形成され得るものだろうか？

一般に、スポーツとはいえ余り勝つことばかりにこだわるべきでないといわれている。勝利を目指さず、安易な環境のもとで、眞の人格なるものが形成され得るだらうか？　大体人間形成なる難しい語句は私には分らない。人間形成の手段である、スポーツに於ては肉体的苦痛ももちろん精神的苦痛も伴つてゐる」を乗り越えて初めて人間性なるものが形成される。

競技が目的である運動部が、余りにも寛容で、厳しくない、というのも考え方である。穏やかな海では誰だつてヨットを浮べることが出来るのと同じである。

ヨットマンには人と自然との二つの敵がある。なかでも海は穏やかな時は全く女性的で何等危害を与えないが、一度び狂い出せばヨット等は全く木の葉の如くもて遊ぶ。

しかし、この自然を征服する無限の可能性を秘めいるのも人間である。この二つの素晴らしい相手を与えた我々ヨットマンは誠に幸せであると思わねばならない。

自然科学には『STUDY NATURE NOT

BOOKS』なる金言がある。ヨットもしかり、人間性完成もしかり、である。物事總て五体で感じ取らなくては身につかないことは誰だつて知つていて。しかし、その与えられた試練の場からすら逃げ出す人が余りにも多い、浮草にも似た彼らを哀れに思う時もある。

レースはすべて勝つことを前提とした試練である。勝とうとせざして眞の前進はあり得るだらうか？　R.A.O

田とは勝つことなり、勝ち残らずして優秀な R.A.O. 田が残らないことは、ダーヴィンならずとも知つてゐる。クーベルタンは参加することなり、といつたが彼は生物の

試験は欠点であつた様に思われる。私事で恐縮だが、レースのたびに稍然としてブールを後にしたあの苦い思い出、勝たねば話の種すらならない。しかし、力以上の力を見いだして敗れた時、この時こそ参加出来ることの有難さを考えるべきである。

考えるに、今の我々ヨット部には何か欠けたもの……。何時だつたか、長大さんはおとなしすぎるゝといったことを聞いたが、体良く書つた言葉であるが、この言葉をまるでほめられているかの如く聞き流していいものではなかろう。この裏にはファイトがないわいといつた嘲笑が含まれている。長大にとつて半ば伝統的なものではあるが、先輩方が残されたものだ！ といつて後輩達に伝えるという手もない。長大に不足しているのはファイトだけだと思う。他の大学に比べても、同じ学生である以上大差があるはずはない。やる気さえ出せばそう大して

ひけをとるものではないと思う。自分も同じ穴のムジナではあるけれど、今のヨット部にはのんべんだらり組が沢山見うけられる。

唯しも強風のもとで筋肉の痛みをこらえ乍らヒールを殺した後のあの何とも云えない疲労感、満足感を味わつた事があるだろう。スポーツすべて朽ちちく肉体の苦痛を乗り越えた後の疲労感、満足感がすべて……。肉体的、精神的苦痛を経験せずして真の満足感、眞の前進はあり得ない。これこそ人間性を強く為の近道と信ずる。

もつとやる気を出そうではないか！ 我々ヨットマンには、自然と、人と、己との三つの敵がある。

学生生活を終えるにはまだ悔いがある。悔いを残して追出されたくない！



ヨット部を語る△座談会▽

出席者

菊 谷 元 資

(長大ヨット部々長)

嶋 長 陽 一

(長大ヨット部OB)

田 健 郎

(長大ヨット部OB)

九 富 勝 美

(長大ヨット部主将)

司 会

阿 南 貞 雄

(長大ヨット部副将)

編集部

森 永 英 彦

(昭和三十七年五月二十四日、原爆福祉社会館にて)

かつて、ヨット部とは女の子を乗せて遊ぶ部だと言わ
れ、大学の運動部として認められない時代があつた。ヨ
ット部創立期の、我々にとつては忘れる事の出来ない
数多くの先達たちの涙ぐましい努力の積み重ねの上に現
在のヨット部がある。今、ここでヨット部の成長のあと
をたどり過去の喜びや苦しみをかみしめて我々は今後の
ヨット部の成長を期したい。我々は現在ヨット部員であ
ることに大いなる誇りを持ちたい。ヨット部という一つ
の集団の中でお互いが助け合い、競い合うことによつて
我々は成長し、ヨット部が発展していくのだから。

(阿南)

ヨット部の誕生：大村時代・昭和二十七年

九大までヨットを見に行つた

(谷田) 大村時代つてのはいつ頃なんですか。まだ先生
はおいでになつてなかつたんですか。

(菊谷) まだきてないんだ。

(谷田) ああそうですか。で、大村時代というのは。

(鳴長) 二十七年です。

(谷田) ちょうど一〇年ですね。で、そのころは船はなくて。。。

(鳴長) 大村市がモーター埠頭をする前にあそこで観光用に買った船があつたんです。それと平らな和船のようなのにマストを立てたのとあつたんですね、それがみんな壊れて乗れなかつたわけです。

(谷田) もつばら陸上ヨット部だつたわけですね。

(鳴長) 二、三の学生で乗つていた人がおつたんですよ。そこでヨットがあるらしいという話でね、見に行つたんですよ。そしたところが艇庫の中にドテツ腹に大きな穴があいて置いてあつたんです。

僕ら行つても知らんですたいね。どれがホース

トランペッタだらうが何だらうが一向に解らんたいね。それで村田と一緒に九大に見に行つたで

すたい。

(菊谷) 水産の村田君だな。

(鳴長) ええ。それで何とかしようやつかというわけで、それを船大工にもつていつて直してもらつて、まあ見よう見まねですね。ハリヤードがワイヤーといふことも知らなかつたからロープで、こうね。。。このデインギーたるや水もりがははだしくてね。

(谷田) そのデインギーは今のデンスケと違うわけです。

(鳴長) 違うつていうか、センターボードが壊れてしまつて新しく船大工を作らしたものだから、こんな厚いやつですよね。それでバンと頑丈に両方からつつかえ棒してマストなんか杉の木か何かでね。

(谷田) ヨットとはいえないや。(笑)

(鳴長) まあ帆を立ててるからヨットですたい。(笑)

(菊谷) それが二十七年だね。

(鳴長) そして二十八年に小林君と大島君たちが入つて

きたわけです。

(谷田) 大島さんという人は高校時代に・・・。

(嶋長) ええ、高校時代に福高でスナイプの選手権をとつていたんです。それで彼一人がトップで僕らがピリからという時代だつたです。

(菊谷) 僕が来たのはそのころで、ヨットらしいものがあるちゅうのでな、夏にひょろりとむこうに行つてみたわけなんだ。そしたら嶋永君たちが乗つてるわけだ。それが例の大村市のヨットでね、ヨット部をこしらえようじやないかちゅうわけだ。

インカレに初出場

昭和二十九年・鹿児島

ヨットオ一号

(阿南) 試合に出たのはいつごろですか。

(菊谷) それからね、僕は、それでは練習をしなくちゃいかんと言つたわけだ。

(嶋長) ディンギー艇じや何も出来んですたい。それ

でもともかくマルク廻航をしろちゅうわけです。

(菊谷) 二十九年に鹿児島に行つたな。ともかく地方でヨットレースがあるというので、それにも出る

ちゅうわけだ。

(阿南) 初出場ですね。

(九富) 九州インカレですか。

(菊谷) そう。

(九富) そのころ何校ぐらい出てたんですか。

(嶋長) そのころは鹿児島、九大、西南、それから長崎と四校。

(菊谷) 五校になつたことあるだろう。鹿児島の県立医大が出て。今鹿児島と一緒になつてるけど。一度五校になつてまた四校になつたんだよ。

こわれても飾つとかにやいかな

(嶋長) そこで教養二年でもうそれがつぶれちまつたと

いうか。もうデインギーが使えなくなつたです

すね。

もんね。それに大村分校がこつちへ移つてきて

あれは二十九年に移つたでしよう。

(谷田) それからデンスケを作る苦労が始まるわけです

ね。

(菊谷) それで、ともかくデンスケ一艇こさえようじや
ないかちゅうわけだ。

(鷲永) とにかく金を一生懸命集めて六万いくらでした
ね。

(九富) 新しいのですか。

(菊谷) 新しいのを買つたんだよ。広島の造船所から。

(阿南) その船は今はどうなつてゐんですか。

(菊谷) その船が今のボロのヤツだよ。

(谷田) だからあればもう大切にせにやいがん。

(鷲長) 一番最初の船だからね。

(菊谷) あれはもう壊れてもあの上につるしとかにやい
かんよ。(笑)。

(阿南) 今でもヨット部オ一號の船が走つてゐるわけで

長崎ヨットクラブの設立・・・網場 田中喜三郎さんの好意・昭和三十年

(鷲長) でそれから私が補導に一生懸命やるけどなかな
か買つてくれんやね。しようがないから何とか
長崎ヨットクラブちゅうのをこしらえようちゅ
わけだ。そこで田中喜三郎さんをかつぎ出した
次才だ。それは非常に心よく、自分が寄附を集
めてやろうというわけで、たいぶん金集めたら
しいんだ。それで高松から八艇、スナイプ四艇、
デインギー四艇買つてきてくれたね。あの人が
居つたからこそヨットが形なりとも整えること
が出来たんですよ。

(鷲長) あれはいくらだつたかな。三十万といつていた
んですけど、とんとんとんと増えたですね。結
局五十万近くになつたですね。

(菊谷) そのうちの三十万は金が集まつたんだよ。そしてあとの三十万どうしても集まらんちゅうわけだ。それで三菱にかけ合つたわけだ、三十万寄附しようと。そしたら寄附するくらいなら艇をく

れもゆうわけだ。で結局デインギー四艇持つて行つて三十万で手を打つたんだ。うちは一錢も金出さずにスナイプ四艇せしめたわけさ。

(谷田) 結果的にはそういうことになるんですけどね。

(菊谷) これは結局、田中さんの好意だよ。

(九富) 長崎ヨットクラブは網場にあつたわけですか。

(菊谷) 網場の水族館のむこうに肥前屋ちゅう料理屋兼旅館があるんだよ。そのオヤジがまあ半分は

ヨットが来ると客がよけい来るちゅうわけだよな、そこにはヨットの置場を提供したわけだよ。で、そこには三ヶ月ぐらい置いとつたわけだ。

(九富) で、そのころはうちと三菱と一緒に練習しどたわけですね。

(菊谷) そう、長崎ヨットクラブとしてやつてたわけだ。

そのころ三菱は艇をもつてなかつたんだけれども、そのあくる年になつて金の問題で、結局三菱に半分艇を身売りせにやならんちゅうことになつたんだよ。

(島長) 三菱が半分艇を持つて行つたら肥前屋が残りの四艇のスナイプをもつぱら営業用に使い出したんですよ。僕らを乗せずに旅館に泊つた客ばかりを乗せているものだから僕らもムカつ腹が立つて時津の艇庫に運んだんです。ケンカしたのを機会に持つてけ持つてけちゅうわけです。

(菊谷) その艇庫にはオ一号のデンスケが置いてあつたんだ。

(鷗長) 艇庫というのは旧医大のポート部が使つていて、あとでヨット部が出来たんですね。あそこは時津町から寄附をうけたんですね。

(森永) 僕らが入つた時代に艇庫の中にポートの残骸があつたです。

(谷田) あれはもうどうにもならないから処分しよう

したんですが、ところがどうにもならないとい
う証明がないと廃棄処分できないんです。医大

のボート部は戦争で死んじやつてその後部員が
いないんですが、昔のお年寄連中が時津にボー
トがあると信じているわけです。でその状態を

いざれにしても説明しないと納得出来ないわけ
ですね。まあ人が居ないと物は朽ちるというこ
とですね。

(鷲長) あすこの艇庫の屋根も大きく破れとつたです
もんね。

(菊谷) そうそう、半分ぐらいは吹つ飛んでたよな。

(谷田) 豊のたびに吹つ飛んでたようですね。

(谷田) 網場にいるころは僕はいなくて、時津へ移つた
シーズンから僕が入部したんです。
ですがちょうどその頃医学部で谷田さんたちが
俺たちがヨット部を作ろうという話をしていた
んです。

(谷田) 僕は長崎大学にヨット部があるというのも知ら
なかつたんで。というは教養が違うものだから
ら。でヨット部を作ろうというんで十人ばかり
集まつて、まあ無理して金を集めれば一艇ぐら
い買えそうじゃないかてなこと言つてたんです。

(鷲長) その頃もう高巣君がキヤップテンだつたですね。
(谷田) はい。小林さんがマネージャーでした。そして
聞いてみると、いや大学にヨット部があるとい
うんで小林さんに会いに時津に行つたんです。
そこで高巣さんに会いまして、ヨット部を作れる
つもりでいるんだがと言つたら、いや同じ大学

今でも貫いでいる全学一本の意識
全学一本のヨット部へ
昭和三十一年
(阿南) ところで谷田さんは・・・。

だから一緒にやりましょうというんでこちらと

しても学部別に持つてゐるよりも一緒に持つたほうがいろんな面でいいからぜひ入れてくれといふんで一緒になつたんです。そのとき岩崎、田崎、高原、天野の連中が教養の一年で入つてきたんです。

で、どうせやるなら各学部に一人じや心細いから四、五人居るような部にしようという意気込みでね。しかしこれはいまだに続いてるんですね。一本の意識というの。

(菊谷) 僕はね、その一本でなけれどやいからんでも始めたんだ。もう別れてたんじや何にもならんのだよ。

(嶋長) 一つは僕ら教養だつたでしょ。ずいぶん仲良かつたですもんね。またヨットは一つじやないとちよつと無理ですもんね。

(谷田) そういう気持つていうか、精神は貫いていると思ふんですがね。

(菊谷) それでね、僕は補導の末吉さんに強く言えたわ

けだよ。ともかくこうやつて一本にまとまつてゐるだろ。ところが補導は学友会を一本にしたがつてゐるだろ。だから一つづつまとめていつてね、盛り上げていつたら学友会がそのうちに一本にならんだから、その手初めにやれちゅうわけだ。そのためにはヨット部が模範的だからヨットに援助せにやいかん。そればつかりで押し通して來たんだ。それでだんだんヨットを買つてくれてね。やつぱり今、一番世話してくれるのはヨット部だよ。誰か口説くものがいなくちやいがん。それで一べん世話しあじめると今度は可愛くなるんだな。だからこんどフインを買つて五万円の問題にしてもね。よくやつてくれたんだよ。

(九富) ほんと雨の降る中をもう・・・。

(菊谷) そう、とにかくまとめて実際に活躍してゐるからだよね。その実績がもの言つてゐるんだよ。

(阿南) 今はもう全学部に亘つて部員が居ますね。

(鳴長) 僕らの頃はミシットはスポーツか、女の子でも乗

せて遊ぶんだろつて言われて、ちょうど「太陽
の季節」のはやつたころで、どこの学友会から
もヨシット部というのは認められずにな。

(谷田) 我々の入つた頃もそうでしたね。しかし歴代ス
ポーツマンがいましたね。何とかうまくやつ
て来た。

いつも負け戦さ

沈した・・・最大じやろ

(阿南) 試合は毎年でてたんですね。

(菊谷) 每年でてるよ。

(九富) 成績はどうでしたか。

(鳴長) レースにいくと、トップの人間がマーケ廻航間違
えたりするでしよう。ところが僕らは一晩ラス
トから行つてずつと離れてしまふんだね、で一
番最後からいつまた廻航まちがつてそのへん
にうろうろしているとリミシットにかかるてしま
うんですね。そんな調子やつたです。だからもう
ゆづくりラストからタバコでものみながらね。

(九富) デインギーとスナイプがあつたんですね。

(鳴長) ディングリーとスナイプとも一年目から出たです

よ。

(谷田) だから、一年部員がいきなりレギュラーで出た
ようなものだよ。それが卒業するまでにだんだ

サロン

霧

トロイカウラ



スタンドバー
ニツカクラブ

トロイカ

浦上駅前

(菊谷) ん格好がついて来たというわけだね。

(菊谷) そうだよな。三年四年になるぐらいまでだな。

(谷田) 出でさえすればいい時期だつたね。実力から言つても。そして本格的に練習が軌道に乗つたのは僕が入部したころからじやないかと思うんで

すがね。

(鳴長) 艇がまず時津にスナイプ四、デインギー一そろつて、それからレースの練習したんですからね。(谷田) 僕の入つた頃ですか、単独出艇はいけないと、夜間帆走はいけないと、一年部員は帆走禁止だとかいうやかましい規定ができたのは。まあ一年生のときは何にも出来なくて艇庫へ行つても見てるよりほかなかつたですがね。

(菊谷) まああの頃からだな、ヨット部らしくなつたのは、三一年の筈だよ。とにかく借物のスナイプが時津に移つてからだな。それまではデインギー一艇しかなかつたんだからどうにもならないよ。

(阿南) 谷田さんが入られた頃は高巣さんがキヤブテン

だつたんですか。

(谷田) そうそう。那次が田坂軍さん。高巣君のヨット歴は永かつたですね。僕はあの人からヨット

を習つたんですがね。

(鳴長) ちょうど一九年でした。教養のオリエンテーションのとき、うしろから行つて一番うしろにサボりそうな学生をつかまえて、オイ君はどこかちゅうたら瀬高ちゅうですもんね、ヨット部入らんかちゅうたら、はあというてから。それでひつぱつたんですね。それがみるみる熱心になつていつのまにか親分になつてしまふもんね。

(谷田) 女の子口説くのと同じ手だね。何となく寄つていつて(ドツと大笑い)。

(鳴長) ちょうどその時はヨットが無い時期でしたね。

(谷田) 紙の上で練習したという。

(鳴長) 毎日講義でしたよ。ヒモの結びかたとか、丁度

「ヨット百科」という本があつたですね、国際旗とか、それからタックちゅうもんがあるとか何とかいつてしゃべりよつたですよ。でとにかくヨット一艇買おうやちゅうわけあとは金もうけのことしか考えなかつたですね。ダンスパーティをしようや、運動会のバザーは引受けようや、なんやかんやでそういうことばつかりだつたですよ。そして学友会でもその頃はヨット部なんか言つても認めなかつたですもんね。費用は全部個人負担だつたです、試合に参加するのも。

(阿南) 高巣さんの次がキャブテンは田坂さんだつたんですね。(鷗長) よく終鳴られたというのは丁度その頃になるわけやね。(菊谷) イセイのいいやつばつかしだつたからな。(谷田) 丁度ヨットを待ちに待つてたのが来たでしょ。で可愛くて可愛くてなれるように可愛がつてい

たからね(笑)。艇が来てみんなイセイがよくなつて、それから練習も出来るようになつた。何とかいつてしやべりよつたですよ。でとにかくヨット一艇買おうやちゅうわけあとは金もうけのことしか考えなかつたんですね。ダンスパーティをしようや、運動会のバザーは引受けようや、なんやかんやでそういうことばつかりだつたですよ。そして学友会でもその頃はヨット部なんか言つても認めなかつたですもんね。費用は全部個人負担だつたです、試合に参加するのも。

(阿南) それから谷田さんのキャブテンの時代になるわけです。昭和三十三年ですか。(谷田) そろそろ、僕とか岩崎君たちのね。それ以後は平穀無事なもんですよ、昔の苦労に比べればね。基礎が出来たから。

(鷗長) 練習が具体的になつたんですね。(菊谷) 結局今度はどうやつて勝つかちゅうことなんだよな。今までとはともかく試合にならなかつたわけだ。僕がついていくと肩身の狭い思いをした

もんだよ。あの頃はインカレには必ずついて行つたからな。またついていかんと心細いんだよ。何にもわからんのだから（笑）。そそと沈するとね、陸の上には帆走委員会があるじやろ、そしてまわりには九大の陸勤の連中がいてね、わあと沈すると、あ長大じやろ、いうわけだよ

（笑）。こんちくしようと思つてね（笑）、シヤクにさわるけどそれが事実だからしようがなかつた。しかしそれがだんだんそれが鹿児島の方になつてきよつたね。

（菊谷）僕が出るようになつてからほんと沈まなくなりましたね。まあそのころから鹿児島と対抗出来るようになりましたね。

（菊谷）負けてもわずかの差つたよな。

（谷田）かなりトップでもちらほら入つて来るようになつてね。

（菊谷）しかし三〇年から三一年頃までは沈や失格が多くつたからたまにトップを取つても総合得点で負けてしまうんだよ。

（谷田）だから僕らの頃つてのは自分がへたくせに怒鳴るばっかりで・・・上から怒鳴られた通りを

下に怒鳴つて、とにかく僕がキヤブテンになつた時も、まあ恐らく三年から五年の間に優勝の線までいこうというんで、入つた連中を徹底的にしほつて出さないかんと思いまして、だからショッパンから怒鳴るばかりで。

ヨツト部最初の新聞ダネ

クルージング遭難・昭和三十一年

（阿南）クルージングで遭難したのは三十一年ですか。

（嶋長）台風の晚でね。大村に一泊して明日の朝台風の模様を見て帰るよう言つとつたんですね、ところがなに、その晩のうちに出るとあくる日の朝、台風でひどかつたですもんね。

艇庫の屋根が飛んどりやせんかいと思つて時津まで見に行つたら、船越君が一人帰つて来てあと二艇はどこ行つたかわからん、多分流されて向うの岸の方についてるだろう。岩崎たちがひつくりかえつてるといふんですぐ警察にとんでいつたでした。

（菊谷）夏休みで博多から帰つて来たとたんに電話がか

かつてきでさ、それから警察に行つてあやまつてな。あれは三一年だつたな。がつかりしたよあれは。

(鳴長) いや、今日は泊つていけといつたのに夕方になつたら空が明かつて波が静かになつたから出てきたつてんですよ。

(菊谷) あれは新聞ダネになつたもんな。

(鳴長) 丁度台風シーザンで新聞社が何か事故がないかというんで待ちかまえていたときだつたですよね。あすこの街道を新聞社のハイヤーがシャー、シャー、六台も七台もボンボン来るでしようが。(菊谷) しかし、死ななくてよかつたよな。

鍛えていく面がないと大学の

運動部と言えない

(谷田) これから練習・心がまえの問題

つて、練習が行き詰まっていろいろキヤブテンが苦勞するのもそういうところだと思うんですね

(九富) 今一艇当たりやつぱり五、六人ですね。

(菊谷) まあ艇の数は少くとも一艇に一人なんてことはとても望めないんだから今が丁度いいとこだよ。

まあもう少しほしいな。

(森永) 僕らが入つた時分に比べるとだいぶん部員も増えてきたですね。特に経済・水産学部の連中が増えて。。。

(九富) 田崎さんがキヤブテンやつてた頃入部した連中が今残つているんですよ。ちょうど芽を出す頃で。田崎さんも結構多いもんですからね。あんまりスペルタ式というのも出来ないです。甘やかしても強くならないし。

(阿南) スペルタ式にすると不平不満が多くなりますね。(菊谷) どういうスペルタ式かね。



(阿南) 練習の面での、いわゆる実力主義というか。。。

(谷田) どういう不満が出るんですか。

(阿南) どうしてもレギュラー中心の練習になるんです。が三年四年部員でいながらレギュラーに入つていい連中が同じとき入つたのに乗せてもらえんというわけなんです。

(九富) 自信過剰の人間が多いんですよ。

(菊谷) しかし、それはレースやつてみてデータずっと取つていけば分るだろ。

(九富) ええ。最初僕がキヤブテンになつた頃絶対の実力主義で、実力のあるものだけがやつていくといふ方針だつたんですけどなかなかそうはいかんですね。

(菊谷) 僕はそれでいいと思うんだよ。ただ乗るチャンスね、レースに出るチャンスじなくて、練習して自分で腕をみがければ今のレギュラーにも負けないぐらいの練習が出来るというチャンスは与えるようにせにやいかなと思うね。

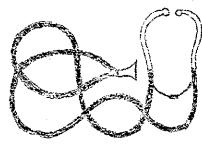
(阿南) だいたい一年二年部員は練習時間も平等にして、それで三年部員になつてから実力の差が出たらしようがないんじやないかと思うんですがね。

(菊谷) 僕が九大に居るころ、合宿しても一年部員は乗せてもらえないんだ。乗るチャンスは朝く起きてから八時ごろまでに乗るんだよな。そうやつて練習してたんだ。結局自分がうまくなると思つたら人がやらんときに努力せんとしようがないよ。努力せずに乗れん乗れんといつて不公平のは間違いだと思うよ。

(谷田) 僕が觀察していく、乗せなくても不平言わずにコツコツと色んな仕事をやる人間つてのは乗せるとすぐに上手になりますね。心がまえの問題ですね。だからキヤブテンなんてのは絶対の権限もつてやりたいことをどんどん思う通りにやつていいと思いますね。ある程度は批判するのは批判するときにして。何か鍛えていく面がないとやっぱり大学の運動部とは言えないんじやないかな。

(菊谷) そういうところで訓練することによつぱり人間が出来ていくんだよな。

(文責 阿南貞雄)



スキッパー野郎のカルテ

医3・マネージャー

えがみてつや

九雷勝美

主将 S級

医5 高松才一高

白波が立ち暴風に近い風が吹き始めると目の輝きが増

し気狂いの様な時の声をあげ、馬鹿の様に快走する。強
風に於る技術は完全で「氣狂い風の主」にふさわしい。

しかし微風では逆に馬鹿みたいに走らない。この微風の
壁を破つた時こそが彼が主将としてスキッパーとして大
成する時であり、田崎前主将に統いて全日本学生選手權
への道が開ける時である。

時津のお寺に下宿して学生定期を使つて学校に通つて
いるがその昔バスの車掌に「学生定期は学生さんしか使
えません」と云われてくさつた事があるので心配だ。そ
の時は長靴にハンチングと云うスタイルでヨットマンの

常として色が黒かつたから多分「時津の船頭」とでも思
われたのだろう。朗々と歌いあげる「王将」は余りにも
有名であるがそれ以外の歌は知らないらしい。

檜林好隆

S級主任

医5 田川東高

強風の九雷に対す微風の檜林 体も大きいし腕力はヨ

ット部一、二を争うから強風に弱いのが不思議である。

仲々の好人物であるがもうすこしレースに対してガメツ
サの欲しいところ。ケラケラと云う彼の笑い声は好人物
である事の象徴みたいな感じがするが、微風の時あの声
を聞くと頭に来る。しかもその笑い声が聞えるのは彼が
トップを走つてゐる時か、後から迫つて来て正に追越す

時に発せられる事が多い。鉄工所の息子だから整備長には適任で時々金具を無料で作つて来てくれるのにはありがたい。だから後輩諸氏は彼が卒業したあとも後をつけ回し住所をマークする事を忘れてはならない。彼の事だから何かしてくれるはずである。

阿 南 貞 雄

副 主 将 A 級
医 4 東舞鶴高

いつもとぼけた顔と声でデインギーの礼讃を始める。

ヨット部一のとぼけ者だから真面目な話をするには骨が

おれるが不思議な事に酒を飲むとだんだん真面目な顔になり冗談を云わなくなる。この男程多くの特技をもち又

進む道を間違えた奴は珍しい。船大工・ガリ版切りと印刷術・スターのデザイン・室内装飾・作詩等すべて抜群のセンスを持つてゐる。医学部にさえ来なかつたら上記の道で日本でも折りの実力者になつていたろうに惜しい事である。医者としてのセンスは不明であるが前述

のセンスよりも落ちる事は間違いない。高校時代は文芸雑誌等作つていたと云うから青白きインテリだつたらしが人も変れば変るもので現在の黒光りする顔にハンチングをかぶり、小学生の行進にみられる様に同じ側の手と足を同時に前に出して歩くスタイルからは想像も出来ない。レース前に強精剤を飲んだら小便をしたくなつてレース中ずっと我慢していた為に走らなかつたと云う貴重な臨床例を持つてゐる。

森 永 英 彦

琴風編集長 S 級
医 4 小城 高

いよいよスキッパーとして活躍が期待されていた時惜しくも病に倒れたが一年間の節制が実つて再起した。もつとも一年間の節制と云うのは大いに疑問があつて皆は本人の節制よりも医学の力に負う所が大きいといつていふ。そろそろトレーニングを始めて来シーズンあたりから又英姿をヨットの上に見せてほしいものだ。

矢野右人

マネージャー・S級

医4 修業館高

村田富士夫

A級主任

水4 春日丘高

陸上トレーニングの教授も兼ねていて練習後や合宿中は朝飯前に迄続り上げているから憎まれないのが不思議で、今一手に憎まれ役を引受け健闘している。「憎まれつ子世にはびこる」のたとえ通り人一倍の体力とファイトを持つてなかなか参つたと云わないから救い様がない。しかし多忙で不愉快な事の多いマネージャー業にあつて常に微笑を絶やさぬ明るさは敵服に価する。矢野式微風用体位を考案してから微風にも自信をつけてきた。人生経験豊かな智将で彼に抗議を出しても何とか云い逃れられて却下にされ抗議料を没収されるのが鬨の山。下手をすると逆に抗議した方が失格させられるから抗議は出さん事だ。学校はどうか知らんが飲み屋とヨットには眞面目に通う。その割に色が白いが人相学者に云わすとそれは？？の傾向があるからだと云う。？？は本人の名譽の為に公表しない。

このシーズンオフに廃船同様だったデインギーを阿南氏と共に見事修復してレースに使用しても他艇と遜色ない迄にした。彼はこの船を進水艇と呼ぶが皆は浸水艇としか呼んでくれずくさつていて。しかし又目下廃船にしてあるスナイプを修理して本船と釣船に使用できる様にしてやると野心を燃やしている。ひよつとするとスナイプの次には今度新しく入るフインをティンギーに改悪する事も考えているかも知れないから警戒と監視を充分にしなければならない。とにかく不可能を可能にする男なのだから。加代ちゃんが作つてくれた帽子をかぶつてござげんであるが、雨に濡れて帽子の色が顔にたれてきた時さぞ「安物の帽子を作りやがつて」と怒ると思ついたら「加代ちゃんの味がする」といつて悠々と色のついたしづくをなめて皆を壁に巻いた。

八木 治

O B 係 A 級

医4 長崎西高

先天的にぎやかさを身につけているのだろう。レー
ス中も麻雀中も諸々の活動中もとにかくよく声を出す。
そしてその声が又よく通る。レースではなかなかのガメ
ツサを發揮して余程の事がないとマーク回航の際敵に水
を与えない。与えないと云うよりは彼の大声に敵が怒鳴
り負けて逃げ出すと云う方が適切だろう。強風になると
船を傷めぬ為、万一沈してクルーと他の部員に迷惑をか
ける事がない様にと岡に上るなかなかのヒューマニスト
で愛嬌者である。矢野氏と共に人相学者の診断を受けた

深川 元

がそれによると？？？ 趣味があるそうである。これも本
人の名前のために公表できない。

谷 雄策

水4 若松高

A級には珍しい長身である。微風ではその長身を持って
余し気味で強風にならねば本領を發揮しない。ファイン級
の有力な乘手の候補であるがそれにはもう少し体重が欲
しい。いくら食つても太らないのは多分金の苦勞が絶え
ぬ為であろう。将来金がたまるとファインで大成しそうで
あるが相当先の事と思われる。魚のスケッチを自分の部
屋にはつてあるが非常にうまいと思う。しかし彼がイル
カのつもりで書いた魚が僕にはサメにみえたし、彼が書
いた魚の名を正しく言い当る者がいない所をみると本当
はスケッチが下手くそなのかな。

漁業科と云う特殊事情の為三年の後半から現役を退い
た。しかし二年の時の新人戦に於る快走は印象的である。
今頃はバリ島、タヒチ島のあたりを股にかけて実習中で
あるが、何しろヨット部一の色男だつたから大いにもて
て困つてゐる事だろう。

A級 水4 香椎高

九人の女性と二七人のヨットマンたち

——平戸・九十九島巡航記——

医5 主将

九富勝美

七月十九日

六時起床さあいよいよ出発、時津ヨットハーバーでは完全に整備された九人の彼女達が静かに我々の出港を待つてゐる。午前九時準備完了、指揮艇静かにスタートバイNE2~3里、クローズホールドで進路を北にとる。十分位して早くも故障艇出る。直ちに艇庫に曳航応急修理出来ず、彼女一人残して出艇、前途多難を思わせる。

一三・二〇黒島到着。ニギリメシ、カンズメで昼食を済ませ

せ一三・四〇出艇、全くの無風状態、クラゲが潮に流れているのがある。遠くにぼんやりと西海橋が見えはじめた。一六・〇〇SW5~6里、二〇・〇〇指揮艇のみオ一の予定地八木原に到着。オ一日目からこんなにおそくなつてしまふ文句が出るだらうと心配していたが、心配通りキヤブ

「文句が出る時にはいろいろ考えるよりだまつて腹一杯食わせろ、そうすればびつたりと黙る」と聞かれていたので直ちに実行した。なるほどねえ。。。上坂、阿南組はおそらく迄魚のケツを追つかけ回していた。どうせ雌のサカナだろう。二三・〇〇舷側にヒタヒタと打寄せる波の音を聞きつつ静かに眠りにつく。

七月二十日

夕艦長起きて!夕の声で又今日の一日が始つた。六・〇〇今日はいよいよ我々の庭である大村湾と別れを告げる日だ。八・三〇全艇チャック一に曳航されて八木原出艇。一時間の曳航の後八ノットの潮流のある最大の難所、西海橋にさしかかる。潮がうずを巻いて段を作つていて、海

の色は無氣味に青い。ティラーを握る手に思わず力が入る。一〇、三〇全艇無事外海に出る。さすがにうねりが強い。N.E.三一四三。チャッカーと別れを告げ帆走、途中クラッカーで昼食を済ませ一三、〇〇鹿子前海水浴場到着。見えました。もちろん。各艇で双眼鏡の奪い合いが始っていた。いやいや僕なんか全然、こういう場所に長期滞在は争いのもと、直ちに艇を回して舟越に進路を取る。一五、〇〇舟越到着、未だ明るかつたので食事当番が夕食の準備をしている間に、新旧両部員に分れてソフトボーリ大会、十・一で負けた、やはり若さには勝てないねえ。

今夜は檜林、本村両コック長による焼めし、実にうまい。

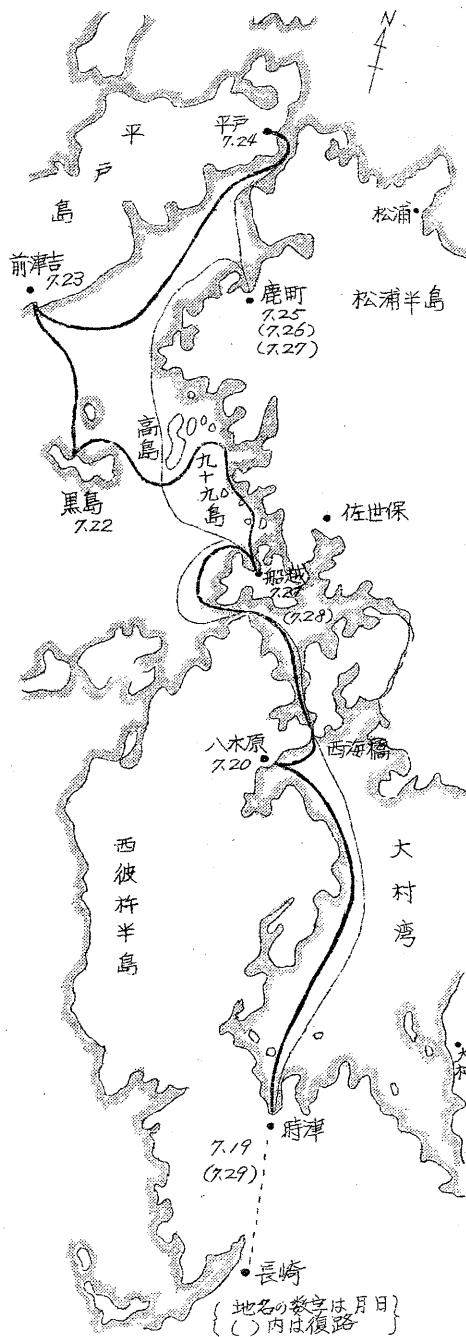
七月二十一日

さし込む太陽の光で目がさめた。今日も又実にいい天気だ。日程がゆづくりしているので一〇、〇〇出艇。S.W.三一四四。高島附近までランニング、行手に絶海の孤島、キリシタンの島、黒島が視界に入る。そそり立つ岩壁に白い波がくだけている。遠い歴史を物語るかの如く、その岩肌には深いしづが刻みこまれている。一三、三〇黒島

到着、全員で教会へ御祈りに行く、すばらしい教会だ。デインギーでオーリングして釣りに出かけた者もいた。長谷川組のシチューで（これは名前だけ、味噌汁を少し濃くした様なものだ）夕食を済ませ、小学校でソフト大会、旧部員完勝、これで一勝一敗。夜のとばりがおり始めた。遠くに点滅するのは平戸島の燈台だろう。教会からは静かに鐘の音がひびいて来る。五・六人で提に出てギターを引きながら夏の夜を楽しむ。午前一時空には星。淡いカンテラの下で遠くのひとを想いつつ……。

七月二十二日

どうも頭がのぼせてほかほかする。ヨットの中に寝ているのにこれはおかしい、夢かな？いや朝日がざらざら輝いている。起き上れない、どうもおかしい、よく見るとボディのスタンが岩の上に乗つかつていて、頭に血が下りすぎた。ぶらぶらしていると、田崎キャップにこつてりしほられた。今日は土曜日、上坂さんと計画しているのだが、前津吉海水浴場でゆっくり土曜の夜を楽しもうと考えていた。残念ながらこの計画はむざんに打破ら



元気一杯、昼は前津吉と黒島との中間にある小島にサザエがたくさん取れると聞いて、昼食はサザエの壺焼と決めて、その壺焼目がけて、クローズホールドで突き進んだ、残念！岩礁多くして艇近づけず。おかげで昼食抜き一三〇〇アーチの風が、外海特有の大きなうねりと共におそつて来た。波の為、他の艇は出たり引つ込んだりしている。片手でステイを握り、片手で双眼鏡、必死におそつて来た。海水浴場らしきものを探したが見当らず。一五〇〇やつ

と砂浜を見つけて到着、早速その附近にいた人に「海水浴場はどちらでしようか」とたずねると、答えて曰く「砂浜はここしかないから多分ここでしようね」上坂さんのおしゃべり顔、もちろん筆者も。前津吉という町は活気のある漁港だ、仲々面白い人達がいる。漁師A「こげん小さか舟（ヨジトという名前をどうも知らないらしい。）の中で、けんかしたらすぐ海の中に投げ込まれるばい」漁師はそんなにけんかが好きなのかねえ。漁師B、赤いヤツケがたくさん見えたので女の子が来たとばかり、一

番に砂浜にかけ出して来たそうだ。赤い着物は女だけと決めこんでいる。そう云えばこの親父ヨットが着けば、がつかりしていた。明日は最終目的地である平戸へ行く日だ。今夜は早く寝よう。南洋方面で熱低が発生したそだ。

七月二十三日

旅館の若奥さんの振るハンカチをあとに、後髪を引かれる思いで進路を北にとる。完全なクローズホールドのコース。風速 $3\sim4$ m、左に平戸島右に九十九島眺めつつ指揮艇ロングコースを取る。一二〇〇艇上で昼食をすませ各艇を確認、しかし△三八一見当らず、近くの僚艇三八九に捜索を依頼、指揮艇しばらくシバー待ち。三〇分後三八九に連れられて△三八一視界に入る。聞く所によると三人共天気が好いのでついうとうと、居眠り運転していたそうだ、実にケンカラ。艇長は村田。一五〇〇川内に到着、昨夜の艇長会議で平戸海峡（最大潮流一三ノット）を帆走か曳航かでもめたあげく、結局安全を期して曳航する事になつていたので直ちにチャツカー

をチャーターチャーターして曳航。一八〇〇平戸到着、その日は興館高校で御世話になる。今夜は無事航海を祈つてビルで乾杯。部員の顔も実際に見事に焼けてきた。笑つていなければ、どちらを向いているのか全然区別が出来ぬ。皆ぐつりと眠りにつく。今日の夜も又星がきれいだ。

七月二十四日

翌日起きて驚いた。ひげの親父がとんで来て、バカヤロウー、お前等ここで何しとる！見れば分るだろう、歯をみがいて顔を洗つている。聞く所によるとこの親父こその僚長だそうだ。何でも、依頼状にヨット部とだけ書いて責任者の名前がないので、寮の使用を断つたそうだ。いや朝から驚いた驚いたペコペコと謝つた。一〇〇〇出艇を九〇〇にして直ちに帆走して出てしまつた。風速 $5\sim6$ m、潮流 5 ノット。岩礁が潮流の為大きく波を切つている。風も岩礁附近でぐるぐる回つている。指揮艇海峡に入る。潮流と風の為すごいスピード、ラダーが全然きかない。潮流に押し流されながら何とか切り抜けれる。冷汗がペツトリ。やつと一安心したと思うと今度は三角

波、ローリング、ピッチング激し。全員頭からぐりしよ
り波をかぶつてゐる。役一時間の後やつと風波おさまる。
外海の恐しさを今つくづくと思い知らされた。行手にき
れいな砂浜が見え始めた、よく見ると白馬海水浴場、こ
こで又一もめ、今日はよく又文句を云われる日だね。

聞く所によると、この海岸は自分の所有地だ、その所有
地に上陸したのだから、一人十円づつ払えと云う。全く
あきれた。これじやどこにも上陸出来やしない。ここは
日本だ。我々皆色こそ黒いが日本人だ、何で金を払う必
要があるか、實にバカバカしい。多勢に無勢、親父すご
すこと引き上げた。いやな親父を後に歌ヶ浦に進路をと
る。一五〇〇歌ヶ浦到着。早大ヨット部OBの遊佐さん
の大歓迎を受ける。町をあげての歓迎振りだ。夜は遊佐
さんの招待で、ベランダでビールを飲みつつヨットマン
の夢を語り尽す。

七月二十五日

七月二十六日

今日も又風波強し、NW 一〇日。帆走限界越えていいる為
無念の涙をのみつい、一日休養にする。

七月二十七日

午前七時起床、風波依然としておさまらず。安全第一を
モットーとしているクルージングだからと云つても食料
の事を考えればそうゆつくりしておれず。八〇〇艇長会
議、熱低が北海道方面に抜き昼より本格的夏型天候にな
るとの事で出艇下す。九三〇 NW 一〇日。町長、助役
事に決定していたので、ゆつくりと起床。一〇時頃より

ソフト大会、町長よりスイカの賞品が出でていたので、両
チームとも大いに張切つてゐる。旧部員チーム少しチヨ
ンボーしながら辛勝。陸に上つたカツバ共でもめしだけ
はよく食べるねえ。江上食料長少ししぶい顔になり始め
る。夜は遊佐さん外四名と我々二七名で合同コンペ、ヨ
ット部愛唱歌次々と歌つて氣炎上げる。歌ヶ浦組の情熱
的なタンゴ演奏に引き続き、ヨット部一のギタリスト、筆
者のかなで「北上夜曲」に皆うつとりと聞きほれてい
た。

遊佐さん、その他たくさんの見送りを受け、長大ヨット部万才の声に送られて、樂しかつた歌ヶ浦をあとにする。風波依然として強し、デインギーのマストアメの如く曲つていて。この風ではとうてい沖のコースはとれないので、指揮艇直ちにタック。岩礁に注意しながら、九十九島の間をぬつて走る。遂に故障艇出る。一〇、一〇 エリザベスのセイル破れる。直ちに修理艇三八七を呼んで、応急修理、沖のコースをとつていたらどんな事になつただろう。思つただけでもそつとする。風波強きため客艇にアンカー投錨を命ず。一二、三〇 少し風がおさまつたので出艇。四、五三、N.E.、つかれたのと安心したので船越まで船底でねてしまつた。一八、〇〇 船越到着。スイカを食つて、いや食わして夕食が遅いのをごまかす。昼はクラッカーダラ、しかもこの強風を乗りきつたのだから皆どんなに腹がへつているか、解り過ぎるほど解つてゐる。しかし風を頼りの我々ヨットマン、最悪の事態を考えねばならない。むやみに情におぼれて食料を与える事は決して許されない。心を鬼にして非常食料をしつかとに

ぎつていた。一〇時頃やつと夕食が出来た。皆がつがつ食つてゐる。江上食料長曰く「一番嬉しいのは皆が満ち足りた顔をしている時だけ」岩崎さん曰ク「ああ！これが幸福つていうものかしら」いよいよクルージングも終りに近づいて來た。どうか全員無事で時津についてくれ。

七月二十八日

七〇〇 起床。九三〇 出艇 S.W. 4~5 m アビーム。一四、〇〇 西海橋入口に近づく。潮流激しく艇近づけず。通りがかりのチャッカーに聞くと十ノット流れているそうだ。対岸につけて潮待ち。三個のスイカが残つていたので、二七に細かく切つてくじ引をする。唯が一番大きいのを食つたが参考迄にあげておく。一位有浦、二位林、三位田崎。二六位岩崎、二七位本村。青いところまでがつがつ食つてるのもいた。一八、〇〇 チャッカーに曳航されて我々の庭大村港に入る。杉崎に艇をつけファイヤーストームを囲み、最後の夜を楽しむ。今夜は夜間帆走、満月の下で艇長会議。夜間に指揮をとるのは不可能に近い、従つて艇長の責任の下で走る事を決定。二三、三〇 A スタ

一ト、三〇分遅れてSスタート。最後にS三八八（指揮艇）静かにスタートバイ。ギラギラと輝いていた太陽もそして荒れ狂つていた白波も今は沈黙している。夜風がほほをなでて快い。手をつけると夜光虫がチカチカ光つて神秘的だ。トランジスターから流れるムードミュージックを耳に静かに眠りにつく。ふと目がさめた六〇〇目の前になつかしい我等の時津ヨットハーバーがぼんやりもやに包まれて、静かに我々の帰りを待つている。六四〇ゴールイン。八三〇全艇無事ゴールイン。やつと任務は終つた。△三八八よりがとう。故障も起さず良く走つてくれた、指揮艇らしく。どんな強風の中でも、激浪にもて遊ばれつつも、いやな顔一つせず、黙々と走つてくれた。本当に御苦労さんどうか静かに艇庫で休んでくれ。そつと彼女に口づけをして別れた。彼女は何の反応も示さなかつた。

ヨット・ボート

各種 ヨット
レーズ用ボート
モーター ボート
観光船

IKUWA NO

桑野造船株式会社
大津市中保町16
TEL 4367

ヨット教室

ウエザーヘルムとリーヘルム

医4 マネージャー

矢野右人

私は強風が好きでした。四年前一年部員の時九州インカレにクルーとして使われた時の事です。何んにもヨットについて知識もないその時でしたが志賀島は眼を開け事すら困難な大雨で多分十一メートル以上の風が吹いていた事と思います。ヨットに対する無智をファイトのみでカバーしそれこそ「死にそうに苦しい」レースだつたと記憶しています。ただ「やはり一年生では使いものにならない」と云われるのがいやでがむしやらにヒールを殺したものでした。

その苦しさがヨットにとりつかれる最初の経験になりました。それ以来強風になると我々のペアは歓喜したものでした。しかし三年部員になつた頃よりティラーを握る回数が増えるたびに思う事は時津の練習ではその八割迄は三メ

以下の微風でおまけに波はほとんどありません。クルーザーの時代はスキッパー共々微風になるとイライラして良い成績を取る機会もほとんどなかつたものでした。そこで時津で練習している以上時津の微風向きの走り方を色々とやつてみました。しかし決してマスターした訳ではありませんが思いついたままに記してみます。さてこれが本題です。

オ一に手がけた事は無駄な風の抵抗を少くする事です。これはクルーをデッキに寝かせる事を徹底しスキッパーもなるべくコックピットの中に身を沈める様にしました。三メートル程度の風の場合はスキッパー、クルー共々にデッキに身をふせてヒールを殺してみましたがこの効果は自分なりに出た積りですけれど・・・。

これは単に艇速のみならずツメの角度にも影響を及ぼす

ものと思われました。

オニに一番大きな問題ですが艇を出来るだけ（勿論の事ですが艇速をあまり落さない限度に於て）ウエザーへルムにする事です。艇がリーへルムになつたらツメにくい事は唯でもお解りの事と思います。ヨットを始めて間もない人がシバーしているセールをしほるのはすぐに出来ますがしほり過ぎのセールをゆるめるには割合気がつかないのと同じ事です。微風の場合だとツメ過ぎているのをペアリングアウエイするには容易に出来ますが常にペアしようとするヨットを常に正常なツメに維持しようとするのは困難な事です。これが出来るだけウエザーヘルムにする大きな理由です。

そこでウエザーヘルムにするにはどうすれば良いかの問題になります。先ずセールの調整ですが図(1)(b)の様にマストの附近でモタセテリーでしほる様にしました。ジブのスライダーも一番前に持つて行きます。そうしてメインセールに幅をもたせます。図(1)(a)は強

風の場合の参考図です。

次にマストを前に出せば出す程ウエザーヘルムになると云う原理があります。しかし微風用強風用と二ヶ所にマストホールを開ける訳にもいきませんのでこれはフォアアステイをしめるか帆走中にバウを沈めてそれに近い状態にもつて行くかです。普通私達がバウを沈めて走ると云うのはこの点にあるのだと思つています。

では次にヒールの問題です。かなり微風の時を考えてみましょう。この時は大部分の風の力がセールを張る事に費され推進力の源となる風が奪れてしまいます。そこでヒールをさ

せる事により

セールの自重

で割合型を作つてやる事が出来るもので

す。そこに風を流してやる

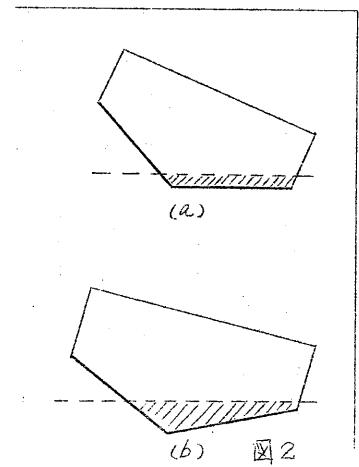


図1

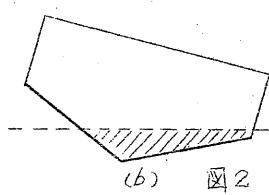


図2

と風の力のロスが少くなります。

ヒールの問題で重要な事は海面とチャインとの低抗の問題だそうです。微風の時はセールに受ける風の面積より抵抗の方が影響が大きいとの事です。私もこの事を「舵」ではなかつたかと思いますが読んだ時、艇を色々なアングルにヒールさせてみましたがこれはその効果を判定する事はとても出来ませんでした。

それで単なる理論になるのですが抵抗を一番少くする為には図(2)(a)の様にするべきです。しかし私の経験では片方のチャインが水平になる迄ヒールさせるのはいくら微風でもオーバーヒールの様に思われました。やはり図(2)(b)の限度迄です。つまりチャインが水平になる前で止めるべきだと思いました。これは自分の考えられる範囲でこの理論に準じました。

今迄微風の事について話して来ましたが強風の場合とどう違うかと云う問題について述べてみます。

強風の場合最大の問題はティラーを握つた人なら誰でも知つてている事でしょうがメインシートを引く力より

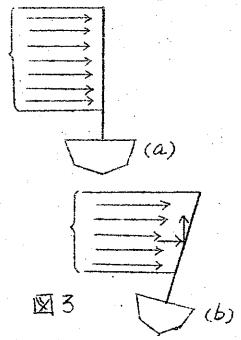


図3

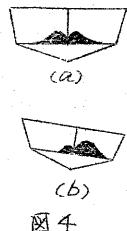


図4

ティラーを引く力の方が重い程ウエザーヘルムになる事です。この場合ウエザーヘルムをなくすとティラーを引くばかりで適切なツメを維持するのは誠に困難な事です。強風の場合は全ての条件がこのウエザーヘルムの問題に関連して来るのでその一つ一つをとり上げてみます。まずオーバーヒールの問題です。ヒールすると風の帆に受けける面積は図(3)の様に少くなります。又図の様に推進力に関係のない上向きの分ベクトルを生じます。これでは艇速が落ちるのは当然です。

しかしオーバーヒールの場合問題になるもう一つの要因は船首波船尾波の問題です。船首波から述べますと図

(4)(a)はヒールがない場合、(b)はヒールした場合です。共に黒い部分が船首波です。船首波

はヒールのある場合とない場合ポート側とスター・ポート

側の和は一定なのではないかと思います。

そうすれば図(4)(a)では船首波は両舷に同じ強さで当たり不均衡は起りませんが(b)の場合ポートサイドに強く当る事それ自体と海水が流れている(逆に艇が止っていると考えた場合)右舷の海水は速く流れ左舷の海水は停滞すると考えられるのでいわゆる「ベルヌーイの定理」が成立しこの二つの事より増えウエザーヘルムが助長される事になるものと思われる。

では船尾波について述べてみます。図(5)(a)はヒールしていない場合、(b)はヒールした場合です。(b)図に於てお解りの様に船尾波によりラダーのウズが出来ます。ヒールしていない場合は両側で打消し合いますがヒールしている場合は先に書いたと同様に「ベルヌーイの定理でラ

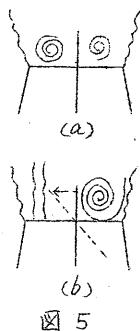


図 5

ダーがヒールしている側つまり風上側に吸いよせられるのでこれは直接ウエザーヘルムに導く原因になります。これで風が強い場合のヒールとウエザーヘルムの関係をお解りの事と思います。

この他に微風の時に書いた様にマストを前に倒す事、つまりバウを沈める事は船首波を大きくすると云う問題も加えてウエザーヘルムに導くと云う点であまり良くない事だと思います。セールを図(1)(b)の様にリーチをしばる事も同様です。ウエザーヘルムになる全ての要素を否定して良いと思います。

しかし私の云つてゐる事はあく迄もウエザーヘルムを減じる努力であつて決してリーヘルムにすると云う意味ではありません。ある程度のウエザーヘルムがないと良い帆走が出来ないのは当然です。

「風」ト「イルカ」ト「ヨツト・マン」

水⁴

谷 雄 策

何時ノ世ニモ、マコトニ暇ナ人間ガイルモノダ。沖デ

風ニアシタ「ヨツト・マン」モ、ソノ例外デハナイ。

風ガ無ク、波モタタズ、「ホンダワラ」ノウイタ静カナル。

海。

ソンナ時、海中ヲ泳グ「クラゲ」ノ方ガ早イ様ナ氣ガス

ル。

コウイウ風ノ時ニ、シバシバ海豚ノ群ニ出クワスコトガ

アル。彼等ハ実ニ可愛イ奴ダ。

タマタマ、卒論ノ題材ガ「イルカ」ニツイテノ研究ナノ

デ、非常ニ興味ガアル。

ウネリニ乗ツテ、セールノバタツク音、マストトブーム

ノキシル音、後ハ人間ノ溜息ト鼻息ダケデアル。

ソウイウ時、奴等ハ突然現ワレル。大キナ鼻息デアル。

「プシュー」ト・・・。

我々「ヨツト・マン」ノ鼻息ナド、モノノ数ニ入ラナイ。

彼等ノ泳ギ方ハ、実ニスマートデアル。

「シンクロナイズ・スイミング」ヲ見テイル様デアル。

褐色ノ濡レタ体ニ、太陽ヲ反射サセナガラ、素晴シイズ
ピードデ泳グ。

ココデ、暇ナ「ヨツト・マン」ハ、「ヨツト」ハソツ

チノケデ、「イルカ」ニ見イル。

先日、黒島附近デ見タノハ十五頭バカリデ群ヲツクリ、

「ヨツト」ノマワリヲ泳イデイタ。

一メートルバカリノ奴等デ、学名ヲ *Neomeras*

Phoca enoidea 和名ヲ「スナメリ」ト言ウガ、ココ
デハアマリ関係ナイ様ナノデ先ニ進ム。

サテ、二人ノ「ヨツト・マン」、「イルカ」ガ「ヨツ
ト」ノマワリヲ回ルノデ、首モゾレニツレテ、クルクル
マワル。イヤハヤ、「コケシ人形」ナミノ姿。

シマイニハ、「イルカ」ノ奴、ワザド我々、カラカツ

テイルノデハナイカト、ハナハダシイ邪推ヲ起シマツ。

感ニ耐エヌ様ニ、我輩ノ「クル」ヲヤツテイタN君、

彼モ「ヨツト・マン」デアル。シカモ暇ナノデアル。ヤ

ニワニ、オールヲ取り出シタ。

奴等ヲシトメル魂胆デアロウ。

スクサマ、我輩、彼ノ考エニ賛成シタガ、ヨク考エテミ

ルト、ナント非科学的、滑稽ナ考エデアロウ。コレモ、

「風」ト「太陽」トガ原因デ、本来ハ、N君ニシタトコ

ロデ、我輩ニシタトコロデ、モツト賢明ナハズナノデア

ル。

「イルカ」ハ、オールヲ出スト、スクサマ海ニモグツテ

シマウ。ソシテ思ワヌ所デ鼻息ガ聞エル。笑ワレテイル

様デ、氣ハズカシクモアリ、癪ニモサワル。

N君、サモ殘念ソウニ、「ヨツトニ乗ツテルンジヤナカ

ツタラナア。」

シカシ、悲観ナサルナ。「ヨツト」ニ乗ツテイルカラ、

面白味ガアル。「ヨツト・マン」ダカラ、滑稽味ガアル。

ゾシテ、時津ダカラ、風ガナクナル。コレガ水中翼船デ

ハ、話ニナラナイノデアル。

「イルカ」モ遊ビツカレタノダロウカ、何処エトモナク

泳ギ去ツテシマツタ。

トイ出シタ様ニ風モ吹キ始メタ。

我々ハ走リ出ス。

暇ナ「ヨツト・マン」達ヲ樂シマセテクレル海ノ生物
ヘノ愛着ガ、マスマス高マル。

時津ノ「ヨツト・マン」ガ、素直ナ人間デアリ、勤勉ナ

学生デアリ、喜劇の主人公デモアリ、ソシテ、暇ナ人間

デモアルノハ、スペテ、「時津ノ海」ト、「風」ト、ソ

コニ住ム海ノ生物ニ由来スルモノデアル。

我々ノ暇ヲシテクレル海ノ生物ニ、幸アレ！

時津ノ「ヨツト・マン」ニ幸アレ！

我々ノ暇ヲシテクレル海ノ生物ニ、幸アレ！

時津ノ「ヨツト・マン」ニ幸アレ！

ヨツト部あれこれ

ヨツト部一の毒舌家が

ヨツト部生活をえぐる

水3

長谷川勝也

一風變つた人間同士が集まるとまとまりがつかないとい
うのが世の常であろう。それが不思議と魅力的なまとま
りを見せているのがヨツト部である。いかなる運動部に

於いても合宿と云うのは楽しいものである。ヨット部に於いてもその例にもれない。では合宿における楽しみを上げてみることにしよう。

最近流行しているのがギャンブルである。私が見る所いつも負ける人は最初からきまつているように見えるにもかかわらず全財産を投げ出してキヤアキヤア楽しくさわいでいる。これがヨット部の夜の主流派である。

これに対し静かに囲碁、将棋を打つてお寺にマツチした雰囲気をかもし出している人種が反主流派である。

主流派、反主流派が共に楽しむのは睡眠前の床についてのゴールデンタイムであろう。

昨年迄はやれトイレの跳返りがどうの恋愛感がどうのがテーマであった。今年は夜のスター・ヨット部初代横綱M君が現われ幽霊談議がベストテーマである。その他手相、人相、女切りなんでもござれで特に人相学？では出歎亀や姿態とかがとびだして迷惑を蒙るつている人もある。でもまんざら見当違いでもなさそうだ。

昨年に次いで今年も美しい女性あえて美人とはいわない

が四人入部した。これで五人の女性部員が居るわけだ。女性が入るのはいいけれどここに困った問題が我々男性軍に生じた。生理現象である。

昨年はMさん一人だったので彼女がヨットに乗ると岡勤野郎どもは今とばかり神崎のビロー樹に向つて用を足した。だからビロー樹は大きくなつたこと。

ところが今年は六人である。マルクでも同時に五つ見られないのにどうして六人の美女をマークできよう。いつも数人岡勤している。

でも女性部員はインドのカラスと呼ばれようが、カルピスの広告と云われようが来年も又入部して来るであろう。艇庫は完全に女性に奪われるであろう。女性がオツチヨイをし、男性がセールを縫い、グリスを塗る。でもそれはそれとして楽しい。ヨットも偉大なる女性のオヒップに乗られてイヤとも云うまい。

コンペ、これも又楽しい。色々の姿態が見られる。存在論者、泣き上戸、まつたく愉快である。

ヨットをサボル、これも又楽しく悲しいものである。

ヨットサボッテ何をする。マージヤン・デイト・睡眠。色々人によつて違うであろう。しかし一日が過ぎてヨットに行けば良かつたと思うのがヨットマンの常である。

土曜に学校が終る、息を切らしてバスに乗り着いた所が時津町。泥に交りオツチヨイをする、でも結構楽しい。

沈：これも一度は経験するものであろうがするなら水泳シーズンが良い。ヨット部員は薄情である。沈した庭の廻りを走りながらやいやい云う。でもなかなか飛びこんではくれない。でもこの薄情が愛情に等しいのもヨット部ならではある。ヨット部員一人一人身体検査をし、沈係を作り、モーターボートでも買つて救助に当ればといふ夢を見ることがある。

何にしてもヨット部は不思議と人の心を引きつけるところである。



女子部員の記録

美しくなりたい年頃の女性が南洋帰りと言われながらもヨットを捨てなかつた。女性から見たヨットの魅力とは。

薬² 増田温美

「えらい焼けたねえ、まづくろけやないの。いくら南国いうても、そんなに暑くないでしょ。」

「ヨットに乗つてたからやわ。」

「ヨット？あの帆かけ船の事?。」

「帆かけ船と同じにしないで、難しいのよ。」

「でもレジャーを楽しんでいるというわけやね。」

「・・・・・」

これは真黒に焦げて、夏期休暇利用の為帰省した際の友人とかわした会話の一節である。ヨットを帆かけ船かレジャー・ブームの落し子位にしか見てくれないこの友人は、「そんな南洋帰りの様な顔になつても、よく平氣で

いられるわね。ヨットの面白さって、一体何?』と私は
からかい半分で聞く。「面白さ?」私は答につまつた。

× × ×

一年経つた今でも適當な答を見い出し得ない。美しく
なりたい年頃の女性をして、南洋帰りという言葉を甘受
させる位の理屈では考えられない何か、魔力というと、
おおげさだろうが、何かが、私を一年間ヨット部に留め
ておいたのだ。

一年前、私はヨットについてどの様な想像も出来なか
つた。ヨットが白いセールに風をはらませて走るとい
事以外は全く見当もつかなかつたのだ。須磨海岸や琵琶
湖で見た事があつたのだが・・・私は思つた「青
い海があつて、青い空がそれに続いており、真白のセー
ルをはつたヨットが走る・・・それに乗つて私の好きな
青々に自分自身をとけこませたらどんなに素晴らしいだ
ろう。俗っぽい心を青々で洗い流せたら――この甘
いイメージに自分自身酔つて、又未知の世界知りたさも

手伝つて、ためらいながらも入部した。

× × ×

四月一ともすれば遅れ勝ちになる足を速める。例
会の始まる時間はもう過ぎていた。入部申込みはして來
たものの、どうしようかと時間ギリギリまで思い惑う。
自分の決断力のにぶさをうれいながら何要行こうという
決心を新たにしたことか。例会々場は黒い人、白い人で
一杯だつた。みんな私より大きい人達ばかり。新たにし
た決心がまたもやグラつき始める、大変なところへ来て

力合資会社

川本漁網船具店
長崎市五島町
TEL ② 2363

しまつた！すみの方でチヨコンとしていた私の方へ、一人の先輩の方がやつて来られて、少しでも気分をほぐそうとしてユーモアまじりの話をして下さった。コチコチにかたくなつていた私も次第に落着いて、ヨット部では新旧部員の区別が容易だなと感じ始める位、心の余裕が出来て來た。

翌日、時津で、私の最初ヨットに対して描いたイマージが音をたててくずれた。オツチヨイと称するヨット運搬作業をしている人達も、セールを運んでいる人達も、皆ハダシなのだ。皆！それには得体の知れない、異様な服装をして！私は異邦人部落へ入り込んだ様な錯覚をし、自分もあの様になるのかといさぎか不安を覚えた。ギヨロツとした目が私をとらえて、「君は△級がいい」といわれる。と、白い歯が「こつちへこい」すると赤いヤツケが、「向う」と指さされる。あつちへフラフラ、こつちへフラフラ。逃げて帰りたくなつた。

× × ×

その頃の日記にはヨットという言葉が一杯詰まつてい

る。そしてヨットオ一主義になりつつあり、スケジュールを組むにしても、土・日曜は限外に置き出した。ヨットが私の生活と密接につながつて來たのだが、それと同時に、女子部員一人というのが、さみしくてたまらなかつた。特に陸勤の時などは話題の違う男子部員とは自然に離れて一人ボソボソとしているのが殆んどだつた。海をながめには一人で感傷的になつたり、一人で喜んだり。とにかく悲喜を分ちあえる友人がいない寂しさが日に日にいつのつて、ヨットを辞めたいと真剣に考える様になつたのもこの頃である。

× × ×

七月——練習中、あやまつて海に落ちた。ヒールを殺している時足がすべつたのである。もし、レース中だつたら、「足がすべりました」なんて、絶対に云えない。ぼつぼつレースのきびしさが解りかけた様な気がする。スキッパーとクルーの堅い信頼関係が出来なければ、どの様に優れたヨット・マンでも勝利は握り得ない事、その為には密度の高い人間的な接触がなされねばならない

事、良いクルーになる為には、スキッパーの性格も知つておかねばならない事が実感を伴つてひしひしとせまる。今までの自分はどうであつたか。寂しいからといって退部しようとした自分、根性がなきすぎると反省する。志賀島で初めてレースに参加出来た時、本当に残つていよかつた。よし、これからがんばるんだとファイトが湧いた。

× × ×

間もなくシーズン・オフに入り、ヨットの整備が始また。美しくなつてゆくヨットを見るにつれて胸がおどる。セールの修理が又大変だ。難いところは皆、私に任せられるので、ああでもないとミシンをガチャガチャやる。私でも役に立つとうれしい。寒い道を、お寺に向つたのも楽しい思い出だ。

× × ×

五月——必死になつてセイルばかり見つめていた目を海に落とすと、藻が前に流れている、いやヨットがバツクしているのだと気が付いた時には陸から、「バツク

しているぞ!」「何をしているか!」と先輩達の声。セールを出したり、しぶつたり。風糸を見る。ヨットはビンタリ止つて動いてくれぬ。又々陸から声が飛ぶ「走らせる!」走らせたいのはやまやまだが、云う事を聞いてくれないのだ。ラダーをガタつかせ、つめたり、おとしたりしているうちに、ようやく景色が後へと移動し始める。と、風が變つた。俗に云うク女心々以上に変化する時津の風には泣かされる。相かわらず先輩達の声が聞こえる。これが苦勞の始めかしら。これ位でくじけてはいけないと励ます。私には的確に判断する力が欠けているのだ。だから走らない。ヨット・マンに要求される慎重さとか、的確な判断力、それに敏捷な行動は又社会でも要求される素質である。よいヨットマンはかつ優秀な社会人なのだ。今年は女子部員も多勢入つて來た。もう不平は何もないはずだ!さあ又はり切つてやろう!

私は神崎の松の木

ヨツト部員と共に一〇年、喜びも悲しみも共に味わつた神崎の松の木がヨツト部員に話しかける。

経 3

鹿 島 孝 治

私は神崎の松の木。波静かな時津湾の一隅、風光明な、ロマンスの花でも咲きそうな岬の主。

幸か不幸か神崎は、長大ヨツト下部の艇庫と相対している。いつも土曜日ともなれば午睡の夢を破られる。変てこな臭いと騒音とによつて。眠い目をうつすらと開けて見ると驚く。コジキ組合の大会が催されている。夢の続きかな！ ひげずらの男、油と汗でよごれた服、オシリの見えるズボン。どんな奴かと、よくよく見れば、

自称ヨツトマンと名のる男達。なんと無神経な男達よ！ この男たちには「美」という観念が全然ないらしい。まつたく自分の存在が無視されているようで腹がたつて

来る。風の便りに聞くところによれば、少くとも外園ではヨツトマンと名のる男達は、スマートで身ぎれいにしているとか。この男たちときたらお話にならない。目をつぶつて見なければよいようなものの、そうはいかない。風上に平氣で座る。実に臭い。こいつだけには閉口する生きものすべて呼吸するのだから。人間様は週末を楽しんでいるのに、こちとらは拷問にかけられているようだそれ程、臭いのである。彼等の話の内容ときたらお話にならない。どら声で、いつも例によつて女の話。聞くだけ、はずかしくなり、耳をおおいたくなるようなことを平氣で話す。いつたい彼等は大学生なのかと疑いたくなる。もちろんこのごろは不感症になつてしまつた。むしろ興味が湧いて話に聞耳を立てるようになつたがね。朱にまじわれば赤くなるとは昔の人はよく言つたものだ。

又新入部員が入つて來た。今年はちよつと例年のヨツト部と空気が違う。女子部員の登場だ。ちよつとまでよたしか昨年も一人女の子が居たつけ。彼女が來てるとす

ると……ええつと、わからない。年のせいかな？

年のせいではないらしい。声はすれども姿は見えず。たしか髪の長いのが彼女なのだろう。男でんな髪型をする奴はない。たしかに女の髪型だ。立派なものだ。ちやんとヨットマンとして通用するのだから。

男ばかりのヨット部の時、彼等はしたい放題のことをして来たものだ。草むらにかけ込み、一応は仲間に背を向け、じつと立つてゐる。しばらくするとニヤーと笑つて帰つて来る。じつたいなんでニヤニヤするのか感ぐりたくなる。仲間にかくしても自分にはまる見る者の多い。中にはなまぬるいものを足もとに一発やらかす者が居る。彼は肥料になるといはつてゐるが、『おれの身になつて見ろ』と言つた。

こうじう連中と二三年もつき合つて見たまえ。アソコを見ただけで、これは誰だとすぐわかる。時々思い出して、笑うことがあるが、彼等は気が付かないらしい。スケベだといわれるかも知れぬが目の前にあるものを、見て目をつぶるのはおしい。デバガメをやらかす人間より

ずっと高尚だと思つてゐる。ただ興味半分に見て来たわけない。このごろはこれで性格でも何でもわかるようになつた。手相術とかいう本が人間世界で、ベストセラーになつてゐるとか。手相よりもつと確実なのがこれだと確信している。自分も本を書こうと思つてゐるが、題名を何にしようかと迷つてゐる。その前に、映倫かどうかのおつさんと話をつけとかねば、発売禁止になるおそがある。

女子部員の出現で、彼等も紳士的になりつつある。自分に全然見えない所で、用をします者が増えて來た。

言葉づかいが、ていねいになつた。話の内容も大学生らしくなつた。これはよい傾向なんだが、才一紳士的になられちゃおれの腕がにぶる。仕上げの段階だつたのに。まだまだ自分の知らない人間世界のことを話にだけでも聞きたかつたのに。一つの最大の楽しみがなくなつた今残る楽しみは女子部員の生理現象だけだ。次は女に関して研究して見ようと思つてゐる。もすこし高くなつて、どこでやらかしてゐるか場所を見つけねばならん。

九月ともなれば、前か後か、わからない男が出て来る。いつだつたか海を見てると思つた男の頭のうしろが、ぱくぱく動く。めずらしい人間も居るものだと思つたら頬の方だつたといふことがある。ただ白い歯だけが顔の方であることを示してくれる。こんな男もいた。顔がこわばつてしまふがないと言つた男だ。どうしてだろうと聞いていると先日デイトしたとか。自分も白い所があることを、しめすために、ずっと笑つてゐたそら。

新入部員はまだまだ純情だ。彼等の部歌の一つ、女はのせないヨツトマンを意氣揚々と歌つていたが、女子部員の出現で、英語に強い者は変な気がするのだろう。彼女等に気がねしてか、この節のところにくると、彼女等をちらちら見て、心なしか声低く歌う。かわいじやないか。だが心配するな！ 二年もすればちやんとヨツトマンで通用する。生きた実例が目の前にあれば心強いやないか。だが、彼女等がヨツトウーメンでありたいなら、俺も男だ。手をかそり、いや枝をかそり、彼女等のためにうんと葉をつけて、日蔭を作つてやろう

一度でよい、女性から心から慕われ、よりそわれたかつた。昨年、ある女性のために伸びぬ枝をのばし、心ひそかに蔭を作つてやつたのに、俺の心も知らず、今だから見向きもしてくれぬ。恩をおしつけようとは思わない会つたら、あいさつの一つでもしてくれ。

君ら新入部員も先輩と同様、海の男として、たくましく育つてゆくだらうと思えばたのもしい。

私はずいぶん長い間、君ら先輩を見て來た。君ら先輩が、社会人としてはずかしくない人間になつたのは、このヨツトのおかげなのだ。今君等が持つてゐる、恐らく持つであろう、苦しみ、つらさ、不平不満、を悩みつつ一步一歩解決、克服し立派なヨツトマンとなつたのだ。悩む者、ただ君だけでない。全部がもつてゐるのだ。この克服の過程がすばらしいのだ。悩みがあつたら、自分の所に来なさい。共に君しみ、悩み、それを解決しよう。うれしいことがあつたら共に喜ぼう。君ら先輩ともそうしてきただ。一度は通らねばならない道なのだ。自分はヨツト部ほど人間的に成長する場は他にないと思

う。最後までやめるな。そして何かをヨットを通して、つかんでゆけ。それが具体的に表われなくとも、これら若者の成長する姿を、いつも見れるということは、自分はよくぞ神崎の土に生れたり、と神様に感謝せざにおれない。

× × ×

一年部員の抱負

水 1

田 辺 满 子

私はヨット部に入部してからまだ指を折つて数える事が出来るくらいしか練習していないので、ヨットに関しては、ずぶの素人よりもまだ解つていないし、又自分でもそう確信している。だから、ヨットがどうのこうのと云う事は長年ヨットに乗つておられる諸先輩におまかせて、自分は自分なりにヨットにイカレてしまつた一人として、ヨットについて感じたことを云つて見ようと思います。

ヨットがどうして走るかも解らない私ですが、私が生まれて初めてヨットに乗つたときに、私はヨットと波と風の間に、大自然と一緒に本当に小さな白い点にしかすぎぬヨットとの間にヨットの魅力を確かに自分の肌で感じたような気がした。その魅力は強烈であり、日々に大きくふくれ上がつていて、今でも一回乗ることに何か新しいヨットの魅力が一つづつ感じられ、自分の物になつていくような気がする。

こう云うと何か大げさに思われるかも知れないが、これが本当に私の気持である。それにプラスする事のヨット部のなごやかな雰囲気がある。上級部員の人達は全く親切に手取り足取りして、一つでも多く、一日でも早く一生懸命教えて下さるし、又オカキンの時でも色々ヒヤカンながら皆を笑わせてくれて楽しい気持になります。だから私達はヨットに乗るのも、又オカキンも楽しくやつています。特に私達女子部員はファイトを持つて、おたがいにはげまし合つて練習し、一つになつて一步前進したいと考えています。

ヨット部七つの愉しみ

医4
阿南貞雄

一 帆走

原子力の中だといふのにちつぽけな舟に帆を上げて海に出る。あれをヨットと言うんだよと言つたところでヨットとボートの区別すら出来ぬ人間はうようよ居るんだ。風いだ海でブカブカ浮いてるとモーターボートに抜かれて頭に来る。なんでヨットに乗るんだい、クソ面白くもない。原子力時代の原始舟だな、とは洒落らしい。

それじやお聞きしますがね、一体海は何のためにあるんだ。モーター・ボートにスイスイ乗るためか、飛んでもハツブンだい、と僕が力むところはオットセイのようだとアゲ足をとられた。誤解も甚だしい。狹つくらしい我も我もとあがき合う世の中から抜け出て海に行つてみたまえ。何もかも忘れて没頭できる世界がそこにある。王様になつたような素晴らしい瞬間がある。物質的な王様ではない。精神的な豪華を宮殿が開けている。海だ。帆

しゃつた。もつともだ。だがイギリスの船乗りは昔から海は帆走するためにあるんだと言つて自負していただぜ。海があるから帆走するんじやないんだよ、俺達が帆走するために海があるんだよ。風が吹き帆が傾く、俺達は必死になつて舟にする。波をかぶろうと、骨の髓まで塩辛くなろうと。そこには海以外何もない。思い浮ぶことは海だけだ。下宿のメシはまずかつたなあ、飛んでもない。可愛いあの子は、知らねえや。学校の試験はあつたかな、いや、そんなことは思い出さない。ただ海だ。この帆走の瞬間に、俺達の生き甲斐があり、救いがある。帆走こそ最高のスポーツだ。

この間のことだ。ヨットは王様のスポーツであり、スポーツの王様だと言つたら、テニスは庶民のスポーツだとアゲ足をとられた。誤解も甚だしい。狹つくらしい我も我もとあがき合う世の中から抜け出て海に行つてみたまえ。何もかも忘れて没頭できる世界がそこにある。王様になつたような素晴らしい瞬間がある。物質的な王様ではない。精神的な豪華を宮殿が開けている。海だ。帆

走だ。乗つてゐる男は乞食だつてかまわない。

三、友 情

二、クルージング

金が一錢もない。着てゐるものはボロシヤツに破れジーパン。道端をハダシでスタスタ歩きながら、今夜はまたカレーじやる。案の定カレーである。四、五人集まつてポケットの底をつつくと五〇円ぐらいは出てくる。ワツと走つていくところは決まつてゐる。チユウをラムネで割つて一口ずつ飲みまわす。ゾッコンうまい。長崎でこんな素晴らしい真似は出来ない。

夜になる。学校の教室でゴロ寝。蚊がうるさい。ヨツトを沖に浮かべて舟底に寝る。狭くて身動き出来ない。背中はゴリゴリの板だ。しかしそこは別天地である。蚊は一匹も居ない。夜空は素晴らしい。星が流れる。願いをかけそこなつても、また流れる。夜光虫は真珠だ。舟がゆれるとそこだけ光る。海の中に手を入れると夜光虫は手を染める。デツキは夜露にぬれて、やつと眠りつく。夜明けは知らない。

海と太陽と友情、これだけ残つていれば氣を落すことはない。と僕は思つてゐる。僕が長崎大学に入つたとき友達一人居なかつた。山陰育ちの男に長崎弁は外国语であつた。ヨツト部に入つたときの部の雰囲気は忘れられない。先輩・後輩の区別すらつかない、一つの融け合つた塊りであつた。誰もかれもが冗談を飛ばし合い、よく笑つた。何となくみんなが兄弟のように仲良く、家族の中に入つたようだつた。ヨツト部生活今までを通じてこの時の雰囲気は印象的で忘れられない。もうそろそろ追い出される夢を見るような老朽部員になつてしまつたけれどもヨツト部に毎年入つてくる一年生のためにこの雰囲気だけは残しておきたい。たとえ部員が増えて何百人にならうとも。

ヨツト部という団体生活の中では一人だけ我を張るわけにはいかない。困難な問題にぶつかつたときはお互ひが助け合い、お互ひが利益を越えて譲るべきは譲らなくてはならない。そこに友情が育まれる。部員一人一人の

間が、先輩・後輩のさかなく信頼と友情で結ばれたとき、そこにヨット部獨得の雰囲気が生まれる。新入生をして何の躊躇もなくその中に融け込ませるムードが生まれる。これは残しておきたい。

コンペをする、合宿をする、クルージングに出掛ける先輩の下宿に押しかける、みんな目的は一つだと言つてもいいのじやないだろうか。僕が二年、三年部員のころはよく先輩の下宿へ遊びに行つた。また部員が遊びに来てくれた。語りあかしたこともある。最近は遊びに行こうにも先輩は居なくなつたからせめて後輩の部員が遊びに来て話でもしたいと思うんだけれどもどうだろうか。

四 お 寺

ヨットとお寺、どう考えても結びつかない。僕が入部したとき最初の練習日に一艇に九人も乗つて沈をした。

そのうちの一人が顔面蒼白、口もきけない。無理もない話で四月の海につかつたら、いくら沈の経験豊かなヨット部員でもふるえ上がる。急いでお寺に行つて風呂を頼

めと先輩の命令。そのお寺が万行寺だつた。ヨット部と万行寺との因縁はもつと前のことである。ヨット部が時津へ移つたころ合宿所がないのでこのお寺に泊めていた様にお願したのがそもそもその因縁。当時の住職さんがかつてはボートの選手だつたというので心よく迎えて下さつた。それからというもの、とうとうお寺はヨット部の住み家と化した。お寺の人も大変良くしてくださるのでそれに甘えた格好である。迷惑ばかりかけているのに追い出されない。

沈した、風呂を頼め。合宿だ、お寺に集合。合宿がすむと打上げだといつて酒飲んでサワいで帰る。いい気なもものである。ヨットとお寺とは切つても切れない関係になつてしまつたらしく。今、お寺がなくなつたらヨット部は半身不随になること間違いなし。

しかしあ寺に居るひとときは楽しい。おばあちゃんは話好きである。映画の話になるとキリがない。急ぎの用事があるときおばあちゃんと映画の話は禁物である。こちらが尻を上げかける度ごとに新しい話題が飛び出す。

時には一度聞いた話がまた飛び出す。しかし話し相手が居なくて困つてゐる時はおばあちゃんと話すに限る。樂しい。

おばあちゃんはやせてるけどおばさんは肥つてゐる。よしこさんも全国平均を上廻ること間違ひない。お二人ともやつぱり話好きだからおばあちゃんが居なくても話相手には困らない。とにかくお寺に行つて話をして笑うのは健康に良い。楽しみの一つである。

五 レース

レースに勝つためには技術三、運一、ルールの知識五と見積つたがどうだらう。今まで負けたレースを思い出して見ると負けた原因ははつきりしている。どうして負けたか分らないレースはほとんどない。ヨットレースの楽しさは負けたレースの敗因をとり除けば勝てるにとある。ルールの知識を活用して有利な位置に自分の艇を置くことにある。タックテイクというのは日本語では戦術、策略とか言う意味だが、レースにおけるタックテイ

クのかけひきが一番勝負に影響する。がやればやるほど楽しさは倍加する。こちらの戦術に相手がひつかかつた時はティラーを握る手がふるえるほど嬉しい。スタート前からファニッシュするまでの一瞬一瞬に、参加艇はすべて糸でつながれてゐるようなものだ。一艇の動きは他の艇に必ず影響を与える。一瞬の失敗はファニッシュの差となる。しかし一瞬の好判断が勝利をもたらすこともある稀でない。ルールを徹底的に研究し、レースに於て徹底的に応用すること、これは勝敗の半分を示めると言つていいだらう。他のどんなスポーツと比べてもヨットほど頭を使うスポーツはない。そして頭で考えたことを即座に行動に移さなくてはならない。考えた通り戦術が効果を奏してトップでファニッシュする嬉しさ、楽しさ、ヨットレースの醍醐味でなくてなんだらう。

六 女子部員

今年はとうとう女子部員が入つてきてくれた。一体何年前から女子部員を入れようとヤキモキしたことか。来

る年くる年、呼べど招けど入らなかつた。今年は突然変異だらうか。そうではない。それはと言えば増田さんが残つてくれたからである。女子の上級部員が一人でも残つていたから、今年は集まつて来たのに違ひない。

毎年の例なら女子部員が入つて来てもすぐやめていつ

た。不粹な野郎にドラ声で怒鳴られたらたいがいの女性ならやめたくもある。ヨット部に入る動機といえば恐らく楽しそうだからだ。なんのことはない、入つてみたら看板とは大違いである。色は黒くなるし、きついだけだ増田さんが一年間ヨット部をやめなかつたのは大したものだ。いつやめられるか、いつやめられるかとヒヤヒヤしていたらとうとう一年たつた。今年はうんとイキのいい後輩が入つてきたんだから、さぞ残つていて良かつたと思つてゐるに違ひない。

ヤ シ ー ズ ナ ・ オ フ

四月に入るや否や舟に乗り始めて、十一月の半ばまでの八ヶ月の間、土曜・日曜・祭日はいつも舟に乗つている。しかしヨットに乗つていて飽きたことはない。来る日も来る日も同じじうすぎたないオワンのような舟に乗つていて飽きたことはないと言うんだからよつぱどウスノロに出来てゐるんだろうと自分を反省してみてもよさそうだが、そんな余裕すら与えない。

十一月になると北風が吹き、寒くて乗れなくなる。一年間こき使つた艇の塗装を全部はがして新しく塗りなおす。この作業はまた別の樂しさがある。いつたんは木の目まで見せた舟に、ていねいにペーパーをかけ、一枚一枚ペイントを重ねていくと、まるで新しいヨットを自分でこしらえていくような感じがする。ペイントの塗り方

いたい。女子には女子でなくては發揮できない何かいいところがある筈である。それを早く見せてほしいものである。

次第では走らなかつた舟が翌シーデンには走るようにもなるから、腕をふるつて刷毛をにぎる。塗り上りをなでてみる。舟が可愛くてたまらない。正月が明けて艇庫に来てみると舟の上にちやんと饅餅が飾つてある。この餅を食べ食べボディ・ナンバーをペイントの塗り上つた舷側に書き入れる嬉しさは何ともいえない。

冬の間でも時にはオーバーをぬぎたくなるようを暖かい日がある。そんな日に艇庫で舟にペイントを塗つていると無性に乗りたくなる。ぐつとこらえ、整備も済んで舟に乗れる四月を待つ心はまた楽しいものである。

トタン屋根をふるわす冷たい北風の音は若きヨットマンの歌声に聞える。

俺たちヨット・マンだよ

海で会い海で別れ

親しき仲間たち

いつも求めていく

俺達ヨット・マンだよ
今日も海に集う

狂う白波の時津の海で

ヒール殺しあり

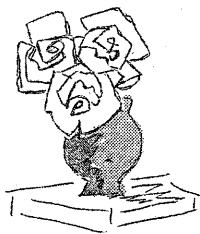
若きクルーのうた

真由きセール帆上げて

共にティラー握り

俺達ヨットの仲間

今日も海に競う





強風に賭けて想う

強風に賭けたクルトとスキッパーの
心の触れ合い、オヤジよ微風でも走
つてくれ！

医 2 練 習 谷 運

強風下に於ける帆走は経験からしても多くの危険性を有していることは百も承知だ。がそれ故に男性的で頼もしくもありヨットの醍醐味を強く味わうことが出来る。波を切つて走る白い艇の駆体を『よろしく頬むぞ』とさすれば波の谷に突伏みバウが下を向く毎に『まかせとけ』とうなづく様で心強い限りである。それ故滑走するヨットの姿は僕を魅せすにはおかないのである。強風に賭けたクルトとスキッパーの氣持は特に密接につながつてしまなければならぬし又最もよく気が触れ合う時である。危険性が大なる故に相互の協調といふことが微風の時より以上に生まれてくるのは当然のことである。ブローが

来る。ヒールを殺す用意をする。ブロー乾入るや艇はぐんとヒールを始める。さぶさぶと水をかぶしながらも、より遠く艇を走らせる様と必死でヒールを殺しながら艇は状況を判断し作戦を立て逆ヒールに気をつけヒールアングルを一定に保つべく努力する。オヤジはオヤジで又こつたりとシリをおとして並んでヒールを殺してくれ、艇がこれ以上ヒールできない場合はメインシートをくりだしてこれに処してくれる。並んでヒールを殺しつつもジブをくいいる様に見つめているオヤジと直接につらきを分ち合い、肌と肌で触れ合う時心が触れ僕はオヤジと何が目に見えぬ太いきずなでしつかりと結ばれている様に

感じ、こうした中で僕は強風の好きなオヤジの気持がわかる様な気がするのである。それはシートに伝わつてくる風の息吹きを片手に、もう一方の手にはぐつと風下側に押しやられようとするティラーを風上側に引きもどす時にぐつぐつと感じられるラダーの抵抗をティラーの手応えの内に、ヨットに求めていたものの何かをあるいは真の己を捉えたという何とも言えぬ満足感ではなかろうか！

強風のつらさの中から否、ヨット部活動の中から得たものは漠然としたものであろうが少くとも何事に於てもヨットと荒海を乗り切り、無我夢中でヒールを殺して頑張つた精神で頑張ればヨット部活動も意義深いものになるのではないかと考える。クルージングの時先輩の岩崎さんが『他人は今俺達がこうしてヨットに乗つてゐる間にも解剖書なり何なりを読み勉強しているかもしれないしかし俺はそれに代る机の上では得られぬ何物かを得ている。』と言われた言葉が記憶に新らしい。

岩崎さんと言えば歓迎コンバの時、『若しお前に彼女

が出来てこの世の中で一番好きなものは何かと聞かれた らオ一にヨットそれから彼女と言えば彼女も納得し土日のデイトはヨットとさせてくれる。練習はサボらずにててこい』と言わたが、この言葉はヨットマンあるいはヨットウーマンも気にとめておられる様……。

話がそれたが、今オヤジのクルーと乗りこんで、微風の時のレースを考えると『ヨットの実力とは、風の状態がどうであろうとも、たとえいつ何時どう風が変わろうともレースに於てトップで帰つて来ることだ』と言わたる岩崎さんの言葉が痛く身にしみクルーとしても一沫の責任を感じる。しかし僕もオヤジに望みたい。これからは『微風は弱い』という観念を捨てさつて、吹かずとも冷静に氣力でも走らせるという氣持を持つて欲しい。『艇の魂が風なれば、全速力こそ生命である』と名だたるヨットマンが認めてる如く、いかなる風のもとにあつても『オヤジよ走れ走れ』と激発したい。

オヤジ：医五年、現ヨット部キヤツブテン 九富勝美

早く言ひたゞ「スター・ボーイ」

垣内恵子

今日はとつてもいい天氣である。でもあまり風がないマークをうちだといつてもなかなか帰れそうにもない。はたして舟の速度はおち時速一センチぐらいになつてしまつた。みんな黙つて少しの風音も聞きのがすまいとして耳をそばだてている。でも舟のきしむ音以外に風音らしい物は何一つしない。どうとうたまりかねた先輩の「漕げ」という合図で今まで静かだつた水面もオールにたたかれて白い泡をたてる。海の女王ヨシトも自然の力には勝てずボートに早変り、やつとマークをうつことができました。こんな風でも練習を休むわけではない。先輩は試合に備えて練習、その間私達一年生は丘で見学、いわゆる丘勤である。五分前、十分前の旗の上げ下げや、舟が着く度毎にも、やい持ちに出る。こうして今日は終りだ

と思うと何か物足りなく残念もある。でも一度は先輩もされたんだからと思うと勇気も出る。レースを見ていてもまだよくわからない、ただ速い舟や追い抜かれそうになる舟に一生懸命応援したりする。壁近くなり日も高く次第に暑くなる。紫外線の強さが気になる。やけない様にいろいろ苦心する。だんだん退屈になり、来なけりよかつたとさえ思ふ様になる。そんな時「一年生乗せるぞ」という声がする。皆んな我先にとかけて行く、もちろん私もその一人である。何だか小さい頃を思い出す。いざ舟にのせてもらう、嬉しくて胸がわくわくする「失敗しない様に落ち付かなければ」と思えば思うほど動きは速くなる。先輩の話を全部聞き入れようと一生懸命になる。さつきまでみんなに避けていた日光も今はまともにうけながら。「来て良かった、来て良かつた」と何回もそう思う。先方に舟がいる、「スター・ボーイ」と声をかけねばならない。「スター・ボーイ」といつてみたゞ、口まで「ス…ス…」と出でてくるのであるが、どうしてもその先がいえない。ためらつてみると先輩のよく

とおる声が鼓膜にジーンとひびく。「しまつた」と思う
私は聞えないと小さな声で「すみません」と言う。言
えなかつた自分が恥かしくもあり、くやしくもある。
早く思いきり大きな声で「スター・ボード」と言える様な
自分になりたい。

× × ×

文学少年ヨツトマンになる

夢みる少年がヨツトに乗るまで

水林克也

夢多き少年時代を僕は京都東山三十六峰のふもと月輪
中学校ですごした。信じる人は信じるであろうが、やさ
しいメランコリックな少年だつた。詩を作つたり小鳥を
かつたりしていた。子供の時、おやじにボートに乗せて
もらつた時はこわがつてワンワン泣いたそな、水に対
しては何ともいえぬ恐怖心があつた、それに両親が鴨川
や疎水で泳ぐことを許さなかつた、だから僕が泳げる様

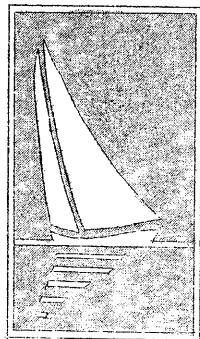
て詩を読む……とても信じられない。

そんなある日、老漁夫の詩々を読んだ、作者もわすれ
たが、海に生きるたくましい老漁夫が海をにらんで潛に
立つている。何かすごい印象をうけた。一つの事に人生
涯をうちこむ姿は全く美しい、特に自然に挑戦する人間
の強さをみた。それが鶴然に海だつたのである。でもま
だまだぼんやりしたあこがれだつた。中学三年の時、雑
誌で商船大学が写真で出ていた。これだ！と思つた。
船乗りだ、俺がやるべき仕事だ、なんて一人前な顔でい
ばつて考えたものだ、おふくろに話すとてんでだめだつ
た。船乗りなんてヤクザな仕事としか考えてなかつたん
だろう。でも僕の性格は一変した。軍艦の写真に夢中に

になつたのは小学校五年だつたと思う。こんな僕がヨツ
トに乗り、船乗りを志さずなんて誰も思わなかつただろ
う。中学時代、文士になろうと考え、俳句・詩・小説(?)
等を作つてみた、でも僕に闘争本能がなかつたわけじや
ない、剣道部に入つて月中三羽がらすになつたりした、
でもやつぱりデリケートな少年だつた。山を一人で歩い
て詩を読む……とても信じられない。

なり、昔の軍隊の話を人に聞くとゾクゾクしたものである。とにかくいくらか男性的になつた。詩人なんてしみつたれたものにみえて來た、もう海は頭にこびりついてしまつた。

高等学校は公立ではガラの悪いので名のある伏見高校へ入つた。そこで漕艇部に席をおいたのだが、ことがすごかつた。カラの悪いクラブで荒っぽく、ごついヤツらの間でドギマギしたものがだつた。腹筋をつけるのに二ヶ月かかつた。本当に死にそうだつた。一緒に入つたヤツはほとんどあくる日にやめてしまつた。来る日も来る日も腹筋で泣き出しそうだつた。つかれてからだがおりて来ると下からロウソクの火であぶられ、からだをあげると水をかけられた。それでもびわ湖で初めてオールを握つた時はうれしかつた。毎日毎日びわ湖へかよつた。僕はヤツ等と同じ言葉をつかい、ヤツ等と同じことをしたそれがいけなかつた学力の低下はみると現れて來た先生やおふくろはやめる様にすすめた。でも僕はローヤンになりきつていた。力漕した後、艇から身を乗り出し



てびわ湖の生一本をのみ、ふと空の白い雲をみた時、何か詩の世界を感じた、でもあわててそれをふりきつた。練習中よくドーヤン（同志社大学）リツチヤン（立命館大学）のヨットと行きあつた。京大・滋賀大のヨットもいた。風に向つて走るヨットに不思議を感じたことが、だんだんヨットに乗つてみたくなるはじめだつた。ある日、京大的学生が女学生をのせていた、風が強く二人は波にぬれてすごく美しかつた。この時、大学でヨットをやろうと心にきめた。それから家運悪く進学をあきらめた僕は、一人大阪へ入社試験をうけに行つた。この時のみじめな気持は全く誰も理解してくれないだろう。

船乗りもヨットも春の日の夢になつたんだから……。

すこし運がむいて来てあくる年、進学できた、でも商船大は無理だと思つて水産をうけた。おやじの商売もやつどうまく行き、又夢が実現したのだ。入学した時から

ヨット部の部室をさがしたりした。

今の僕にはメランコリックだつたおもかげは全々なくなつた。女の子に「あなたは品がある（？）くせに下卑なことばをつかう」なんていわれた。やつぱり見る人は見てくれるのである。このことについて部員諸君から非難がごうごうとおることは必至であろう。でも事実なのである。

今やヨットは僕の世界の半分を占めていた。あと半分の世界から少々圧迫されることがある。カッター等であるが、これも船乗りになる過程であると思えば部員諸氏にめいわくをかけるとは知りながらしかたがないのである。以上メランコリックな少年がヨットに乗るまでの過程を終る。

医者のタマゴが習いたての知恵をしほつて発表したヨット病の研究成果。

ヨット部症候群

医 4
八木 治

ヨット部にはいつたおかげで、いろいろの体験もするが、それにもまして、ヨット部特有の病氣にもかかるのである。以下四年間の研究成果を報告してみようと思う

『急性汎発性沈炎』

この疾患は、きわめて急性のものであり、沈のあと數十分乃至は数時間後に症状を現わし、症状としては、全身倦怠感と微熱が出て身体がカツカツとして、ほてつて来るが、これも船乗りになる過程であると思えば部員諸氏にめいわくをかけるとは知りながらしかたがないのである者もいる。症状は急性伝染病と似ているが、これとの鑑別診断は、他人への伝染性が少い、かほとんどないという点である。この病気の特徴は、再発の危険が多いこと

とである。一日二回たて続けに沈炎にかかつた者もいるが、これなどは、その典型的なやつと思つてよい。つまりこの再発はかなり早急におこり、先日新聞記事になつた例も、この、三日後に再発したものであり、私の経験でも一週間後に同じクルーとの疾患にかかつた臨床例を持つてゐる。しかし、プログノーゼ（予後）はかなりの程度に良い。この疾患で生命までとられた例は少いからである。しかし、ヨツト免疫のない奴がこれにかかると、いちころで、特にオリエンテーションの明くる日にこれにかかり、再発を待たずして、ヨツト部生活の生命を失つた連中は数多い。ヨツト部員なら、必ずかかるハシカのようなもので、これにからないと一人前といえないといふヨツト部症候群の代表である。

慢性怠惰（サボリ）性淋炎

この疾患はクローニック（慢性）のものであり、初期の自覚症状はほとんどない。どちらかといえば顔面はやや白く、時々放心したようにぼやつとしているが、本人は気づかず、他の者も余り気にからない。しかし、次第

に病気が進むにつれて、自覚症状を現わしてくる。何かしらないが胸の中がもやもやと、気分が悪くなる。また放心状態が長くなり、他人と離れがちになりやすい。そろかと思うと、思い出したようにまわりの者に文句をつけたり、どなつたりする。一種独特の精神症状をあらわす。他人との接触が少ないので、伝染の危険はない。この疾患は初期のものと、中期のものの二つに分けられる。初期のものは、ヨツト部一年目の夏までにおこり、予後は悪く、ほとんど回復は困難である。ヨツト部員の生命を奪うのはこの疾患によるものが主で、死亡率の八割乃至九割は、この初期のものによる。中期のものは予後はさして悪くないが、頑固で、他に多くの迷惑をかけがちである。この病気にやられた時の治療方法は集団療法がよくその患者の特に親しい友人の協力と、本人の気持一つである。これの後期疾患はほとんどない。あつたとしても稀である。

慢性微風性鈍走炎

この疾患はスキッパーに特有のもので、クルーには余り

おこらない。症状としては顔面が充血し、頭がカツカツとなるぐらいで、大した症状を呈することはない。これはほとんど慢性のもので、急性のものはない。予後は悪くないが、回復はおそらく、なかなか完治しない。治療法は精神療法がよく、アトラキシン一日一回服用するのがよい。

△慢性強風性傾走炎△

これは主にスナイプ乗りに見られることが多い。これも鈍走炎と同じく、大した症状を呈さない。ほとんどは慢性のものである。急性のこともあり、急性のものはクルーの疾患による場合が多い。予後は両方ともかなりよく急性の場合はクルーを替えると治るが、慢性のものは治ゆしにくい場合もある。どのスキッパーもこの鈍走炎か傾走炎に軽い程度にかかる。または潜在性の場合もある。

△廻航性栄養障害△

この疾患は夏休みのクルージング中におこるのを特徴とする。症状としては身体がだるく活動が鈍くなつてきて

一日中舟の中に寝てばかりいることも多く、これが昂じると、精神障害を併発する場合も多く、手をやくことがしばしばである。精神症状としては自分勝手なことをしたり、何かと他人にけちをつけたりして、いつもイライラしている。この病気は近年富に多くなりつつあり、今年もかなり増えそうである。これは食量事情の不足から来るために、多発性に集団的におこりがちだから、一度おこればなかなかおさまらない。予後は良く、一時的のものである。治療方法としては栄養を補つてやればよいのだが、ビタミン剤その他の薬剤では全く治らず、アルコール分か動物性蛋白の大量投与による方法がよい。

これは多分に気分的なものも作用するので、クル・マネの出発前のこん立て計画いかんによる。同じ料理が同じ周期で出たりすると、この患者が慢延する可能性が強い中にはこのような状態にも拘らず家に肥つて帰る野郎もある。

× × × ×

マネージャー日記

昭和三十七年三月十八日 - 六月七日

医4・マネージャー

矢野右人

三月十八日（日）十時 RKB で九州ヨット協会の理事会に出席、会計報告本年度予定等議事の後国体使用フイン艇下げの件が議題になる。季望艇数が九大二艇、福大二艇、長大も予算のアテは全然ないが二艇希望する長崎に帰り本部に日参するより方法なし、一艇十万円との事。

九大寺井君、福大久保・水上君と博多湾水域の練習合宿の話を聞く。

西南の艇庫訪問、福大の整備を見てサーキュイットト

レーニングの説明及資料を借用、長大も是非実行しよう

つた故の事。桑野でも非を認め一割程度値引きしてくれる。本部よりセール購入の件で呼び出しがある。十日迄に現品が到着しないと貰えないとの事。六京で電話にてが既製品はないとの事。横浜の水野に電話、注文通りではないが S 級一枚 A 級一枚なら都合出来るとの事。A 級三枚欲しかったが S-A 一を急行便で発注。S 級は六艇 テトロンになつたが A 級は二艇のみテトロンで他の二艇との艇差が大きくなるばかりだ、A 級がもう二枚欲しいものだ。

四月七日（土）

合宿も雨が多くルール研究会が多かった。下級生に講習の後試験形式でケースを出題、個人個人採点して点数を発表。これは我々出題者にも良い勉強になつた。一回目十問、二回目二十問で最高点が一回

目二回目共に江上の九十点。明日のルール講習会の為

「オ四長崎」で博多へ

粒でおとなしひきる様な感じ。

女子が六名入部、國体の件があるので是非一人前のヨ

ツトウマンに育てたい。

四月八日（日）十時RKBに行つたが講習会はない

との事。福大・西南・九州ヨット協会と回つてみたが連絡とれず、あきらめたが最後に志賀島の海洋訓練所に電話、ようやく医師会館である事をつきとめた。中央より平田理事他の方が見えて講習されたがあまり新しい見解は聞かれず多少がつかり。用意した質問にもあまり明解な解答は得られなかつた。講習会の後再度フインの希望配分の話あり。

四月十四日（土）新入生クラブ活動のオリエンテー

ションが学生ホールで開かれる。例により学生ホール入口にヨットの写真を並べて入部受付。四十五名程申込みあり。午後六時より国際文化会館で四月例会、新入生は三十七名参加。例によりカレーライスで本年度の予定及新入生の説明会を行う。気のせいか今年の新入生は皆小

四月二十七日（金）県民体育祭打合せ部長会議にて菊谷氏代理で島原へ行く。ヨットは長大の主管だがこの会議で影響あるのは予算だけ。一円請求するだけに丸一日要した事になる。この予算では例年通りの規模だ。

四月二十八日（土）練習は四時に切り上げダンスパー

ーティの会場作りに行く。会場は自治会館で今年は水産学部に担当してもらいハウプトに福島、彼の努力よろしく借金の返済も終りA級セール一枚を注文、七月中旬に出来るとの事。これでA級もテトロンはあと一枚入用なだけとなつた。会場照明音楽もかなりの程度に出来る。

六時半開会、八時過ぎ迄ほとんどが女性なのにはおどろいた。ほぼ満員で盛会だつた。部員みんなの努力のお陰だ。

四月二十九日（日） 五日間の西日本インカレ合宿、ほとんど微風ばかり西日本の博多が思いやられる。

A級の広島、S級の西南の活躍が目立つた。協会にフイントの件を再度頼んで帰る。

五月四日（金） 十二時西南でのキヤブテン会議。二校シード案に反対が出て五校つつA・B・パートに別れ予選形式をとる事になつたのが大きな議題。西日本も十校参加となると、今までの西日本インカレの内では一番のビッグレースだ。パート分けは運が良かつたのか軽い相手ばかりのBパート。これなら予選は楽勝だ。Aパートが岡山大・広島大・西南大・福岡大・鹿児島大の五校、Bパートが広島商大・松山商大・九州大・長崎大・鹿児島

経大の五校、共に三校勝残りの予選三レースに決勝四レース、昨年の新人戦の二の舞だけはしない様に！

五月六日（日） 昨日の予選ではBパート九大に次いで二位で決勝へ、Aパートでは岡山大・鹿児島大が予選で敗れる。Bパートでは広商大・松商大が予選で敗れる

今日の決勝は六校中四位長崎大の実力と云う位置か？

五月八日（火） 再三本部へのフインの交渉に行く。四月二十二日頃決定するはずの配分の方法がまだ協会より来ないので学校側も方針が出来ないと。なにしろ横浜現金渡しなので現金には縁のない国立大学故そり簡単に行く問題ではない。

菊谷先生に相談、学校側が不可能な場合は我々でなんとか現金を集めなくてはとの事。

五月十日（木） 協会よりフインが配布されるとの連絡。十一艇の希望中長大・福大・鹿経大の三校に一艇づつ当る。送料共で十五万円。本部に連絡。小林氏が各方面に努力して下さる。しかし可能性はまだ不明。

市役所・県庁に県民体育祭の具体案及選手登録を提出夜阿南宅に森永・江上・西山・矢野と五人集り「琴風」創刊号の具体案を製作。

五月十三日（日）長浦迄の一日クルージング、一

艇四～五名で九時に艇庫を出発 N・N・E で三～五メートルのク

ローズホーレド。トップが長浦に投錨したのが十二時四

十分、上陸したのは檜林艇・矢野艇のみ、他の艇はかな
り遅れたのでそのまま帰途につく。始めて遠出の新人達
特に女性には気を使つた。トップ艇帰着が四時四十五分
この頃よりベタ風になる。夜のコンバを考え引船を頼む
引かれた船、鹿島艇・長谷川艇。

きすぐ茶屋で新入生歓迎コンバ、三十数名しか集らず

特に新入生が八名だつたのはさびしかつた。酒が多過ぎ
たせいか、グロツキーになるもの、泣き上戸とにぎやか
に出た。また一寸したイザコザがあり松尾先輩を始め心
配をかけて申訳なかつた。部員同志の事自覚して欲しい

五月十四日（月）本部にフィンの件で相談に行く。

教養・水産・薬学・学芸より三万円ずつ借りて十二万円
集つたとの事、残り三万円が問題だ。協会に再三請求し
て置きながら今となつて買えないとなると面白くない。

菊谷先生に電話、五月十四日迄に現金が着かない場合
は適当に処分するとの話だつたとか……。

五月十六日（水）本部より電話、フィンの残り三万
円が出来たとの事。本部尾崎氏と医学部に行き総額十五
万円としてその足で福相長崎支店より協会に送金、曲折
も多かつたがこの問題も解決、学生部々長を始め各学部
の事務長他全く多数の方に御世話をなつた。

五月十八日（金）午後六時文化会館にて五月例会、

菊谷部長を始め琴風会より六名、全部で五十二名参加、
議題の西日本インカレ反省会では長大の欠点としてのチー
ムレースのまずさ、博多湾の波に全然乗り得ない点が強
張された。前者は現在 S-6、A-4 で練習しているので充
分練習の余地がある事。後者は O-B よりの意見で沖の練
習場を使う事等の案が出たが五十名の部員を連れて堂崎
迄片道一時間以上かけて帆走し練習時間が極度に短縮さ
れるのではないか？ これはまだ研究してみなければど

ちらとも云えな。

明日よりの部内琴風杯菊谷杯レースに先立ち昨年度の優勝カップ返還式とミニチュアカップ贈呈式、A級(菊谷杯) 村田・林組、S級(琴風杯) 矢野・江上組。

その他県体レース出場者発表、パートイ決算等、パートイは現在ヨット部財政赤字の為無税でほぼ四万円の収入がある。議題の後新入生一ヶ月の感想を聞く、皆「良い部だ」「先輩は親切だ」との意見が多く我々の期待した不満や積極的意見は聞かれなかつた。最後に先輩よりの話、部歌・愛唱歌をうたつて解散。

五月二十日(日) 二日間の菊谷杯・琴風杯レースを

終る。S級六チームによる完全乗り回し、A級は六チムによると例年の様に同点及艇差が目立つので四チムはエントリーが多くなつた。S級優勝矢野・江上組、二位橋林・玉井・藤岡組、A級優勝八木・野口・岩永・永田組、二位村田・有浦・林組。

皆 様 の
東 洋 軒
パ ン 和 洋 生 菓 子
レ 斯 ト ラ ン ア イ ス ク リ ー ム

本店工場代② 2225 觀光通店代② 1181 大波止店② 0376
恩案橋店② 0522 浜町店② 3029 築町店② 9705

新入生 A・S 組み合けをして、それを A₁ ~ A₄、 S₁ ~ S₆ と上級生より学年別に一、二名を入れてパーティを組ます。新入生は出席率七割以上の二十名を対象にする。これは練習に来る部員の指導その他活動が円滑に行く為の初めての試みだ。良い意味のセクショナリズムになれば良い。

五月二十一日（月） NBCよりテレビ夕刊にヨット

取材の申込み、十二時に電話して来て四時迄に取材したいとの事、とても無理な話、キヤツプと相談して次の機会にしてもろう。

五月二十四日（木） 中央公民館で県体長崎市代表の部長打合会議に菊谷部長代理で出席。市よりの補助金三千二百円が出る。

五月二十五日（金） 三時のバスで島原に行く。県体最終打合せ会議に出席。予算八千円。参加費・賞状をもたらつて帰る。長崎着十一時、帰途「僕チャン」で今日行われた「ヨット部座談会」の連中に会う。

五月二十七日（日） 悪天候でかなりの雨、その中で七時半よりマルク打ち、テント張りと県体の会場作り、長大よりはキヤツプ以外は三年部員を出場させる。参加は北松浦郡鹿町ヨットクラブが A₁・S₁、佐世保市 S_K が A₁、三菱電機 S₁、三菱造船 A₃・S₂、長大 A₃・S₃ とかなりの団体よりの参加があり S₇・A₈ となる。大会々長審判長に菊谷氏、審判に吉井・天野氏その他総務矢野、水路阿南、記録森永、会計発着江上、整備檜林と役員になり他全員で運営、オーレースでゴールの際一艇をのぞき全て逆方向より入り又本部でうかつにもそれを認める失敗をしたためノーレースとなり結局再レースを入れ、五レース行つた。A 級優勝が有浦組（長大）、二位浜口組（長大）となつたがこの二組は同点で二位の数の多い有浦組が優勝、三位は三菱造船、S 級は優勝別府組（三菱造船）、二位鹿島組（長大）、三位

九富組（長大）、雨も午後は上つたがなにしろ悪いヨツト日和だつた。初めの参加として三菱電機・鹿町ヨットクラブ、それにS・S・Kが出場した。お寺で夜打上げ。

五月三十日（水）本部より電話、午後三時艇庫視察があるとの事。部長・次長・課長・係長・他で六名の視察がある。部より矢野・村田・時津のヨットハーバーとしての悪い点を認めてもらう。菊谷部長も網場艇庫移転案を出しておられた。本部で移築を考えるとの話で視察を終る。

六月三日（日）昨日の「沈」が長崎新聞他毎日・西日本と、かなり派手に書き立てられる。前二者の新聞は三段抜きで全く事實と反する大げさな表現。
二時頃、本部より課長・係長が昨日の模様を聞きに来られる。一緒に警察に行き頭を下げて来る。この程度の「沈」は日常茶飯事なのに余程新聞種がないとみえる。
今日は開学祭の一般公開午後十四、五名乗りに来たどうか？ なにしろ天氣が悪かつた。

六月二日（土）強風注意報と、雨の中で練習、練習を終了しようと思つた四時頃A級で有浦・古川組が「沈」スナイプで救助に向つたが強風の為と漁網に流される為救助出来ない。A級のオーリングで行く。強風なので安全の為チャッカーをチャーテーする。今シーザンで最強風だつたろう。

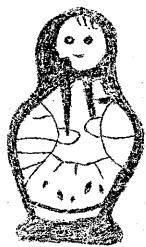
六月六日（水）九時に文部省より艇庫視察があるとの連絡。艇庫に行く。十時十分佐世保よりの水中翼船で文部省及大学事務局より十名の視察員が來訪、部より矢野。来年より埋立予定地及艇庫の現状を調査、事務局の意見として網場移築案が出る。部としても賛成意見を出す。約三十分程の視察で終る。

六月七日（木）「才四長崎」にて長大より阿南、矢野の二人が九州水域オリンピック強化合宿参加の為博

多へ向う。

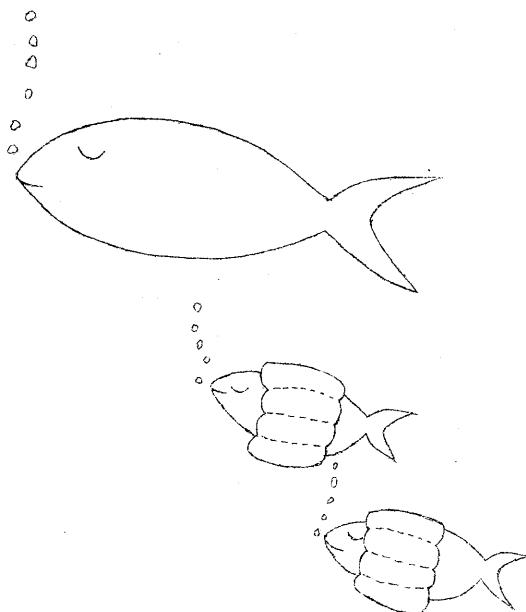
これは九州ヨット協会の主催で八日・九日・十日の三日間、博多湾宮の浦でのフイン級を中心とする地方のヨット技術推進の為の指導者講習会（この件については別の項にて記事にする）。

あなたの酒蔵
..... 僕ちゃん



浜口町・大学病院前

ヨツト部愛唱歌集



ヨツトマンの恋

ヨツトの仲間

一、これぞヨツトマンの恋

イカリはくわせぬ 僕の胸
めぐる港みなとに花は咲く バラは咲く
あまい夢の人よ 明けりやおさらばよ

これぞヨツトマンの恋

僕のまことは流れる風と波

二、俺はヨツトマンだ ホーイ

お宿は果てない 波の上

今日はヤシの島影 明日はオーロラ燃ゆる下
海は世界をめぐり 世界は空めぐる

俺はヨツトマンだ ホーイ

俺の恋ははるかな空と海

俺達ヨツトマンだよ

風と波の仲間

海で会う 海で別れ

親しき仲間たち

海られぬ汐の香り

じつも求めて行く

俺達ヨツトマンだよ

今日も海に集う

狂う白波の 時津の海で

ヒール殺し合う 若きクルーの歌

真白きセール帆上げて

共にティライギリ振り

俺達ヨツトの仲間

今日も海に競う

腰のナイフ

ヨツトにかけた男の命

一、腰のナイフにすがりつく

可愛いあの娘の願いでも
するその手をふりはらい
女は乗せないヨツトマン

一、ヨツトにかけた男の命

なんで女が知るものか
とめるあの娘の袖ふりはらい
ヨツトマンだよ 箕は行く

二、女乗せないヨツトなら

長い黒髪断ち切つて
男すがたに身をやつし
ついて行きます 海の果て

二、波の間にまたきらめくセール

なんで黙つておらりようか
シートしづつて ヒールを殺しや
うなる北風俺のもの

三、男すがたに身をやつす

女心のじじらしさ

わからぬ俺等じやないけれど
海の撻にや換えられぬ

三、国に残した御袋さんの

老いた姿が眼に浮ぶ

手に手を取つてヨツトに乗せて
海の果てまで行きたいな

四 やむにやまれぬ勝負の世界

なんで負けたかわからない

霧が流れる夜ふけの酒場

セールかついで一人行く

五

酒は飲んでも飲まれちやならぬ

これが男というものさ

明日は他人のあの娘のために

今宵しみじみ飲んでやろう

三 ふたつとせ 二つ続けてタックして

艇が止まつて大あわて そいつはくさつたね

四 みつつとせ 右にセールをはりながら

スター・ボードと声かける そいつはゴウキだね

五 よつつとせ しつかりしてよの声きけど

艇は帆まかせ 風まかせ そいつはくさつたね

六 いつつとせ 行きは揚々沖へ出たが

オール忘れて 風に会い そいつはくさつたね

数えうた

一 はじめとせ 橋のお国の長崎の

長大ヨット部の数えうた そいつはゴウキだね

二 ひとつとせ 一番ビリからスタートして

七 むつつとせ 無理は承知の別コース
風が変つて初手柄 そいつはゴウキだね

やつぱりビリからゴールイン そいつはくさつた
ね

八、 まなつとせ 泣く子も黙る長崎の

音にきとえたヨジトマン そいつはゴウキだね

九、 やつとせ はつたりきかせて水もらつて

悠悠トップでゴールイン そいつはゴーキだね

一〇、 ここいつとせ コースは上々風もよし

庭も軽いがまたラスト そいつはくさつたね

一一、 とうとせ 時津の海はいつも風

風が吹く日にや 雨が降る そいつはくさつたね

一二、 おわりとせ 尾張名古屋は城でもつ

長大ヨット部は俺でもつ そいつはゴウキだね

一三、 おまけとせ おまけにもうひとつジャイブして

やつぱり沈して大あわて そいつはくさつたね



名曲と珈琲

コーヒーブレイクは
お気軽に.....

サービスタイム	10.00	～	15.00
コーヒー	50	円	
紅茶	50	円	
トースト	20	円	

TEL 2-5407

ウ ミ ノ

皆様の店

食堂

蘭

谷

市内浜口町・大学病院下

編集後記

真夏の照りつける太陽の下、海とヨットに血を沸かしてゐるヨットマン達に、機関誌『琴風』をお届けします。すでに四、五年前から、先輩達の間でその気運はありますながらも、仲々発行の運びに到らず、今日、日の目を見る事が出来たのは皆様と共に同慶に耐えません。

創刊にあたつて、多忙な中を学長からは題字の揮毫を戴き、学生部次長からは特別寄稿、そして我々のオヤジ菊谷部長からは巻頭言を寄せて戴き、心から感謝して居ります。尙、重ねて今後の助力御指導の程を御願い致します。

有志先輩からの寄稿を仰ぎ、そして創刊であるだけに幸先の良いスタートをしようと思ひながらも、小生の未熟さのため、色々と懸念、不安が多かつたのですが、これが皆様の手許に届く時、全て杞憂となる事でしょう。

編集の面での、不手際・ミスは、取り消せない所で、赤面の感がありますが、読み辛い所は、何卒平に容赦願いたい。

創刊に於いて先ず、今迄のヨット部の歩みをたどる意味に於いて先輩達との座談会を企画したのですが、草わけの頃の先輩達の苦労、そしてそこに培われた伝統を銘記してもらうのに、有意義だつたと思う。

今後もどしどし良い企画を練り、新鮮で進取的な編集をやつて行こうと思つています。

そして『琴風』は、諸君の尽きる事のないエネルギーの足跡、航跡をしるすチャートであり、更には羅針盤ともならんと念じて居ります。

更には、琴の海のヨットマン達に、『琴風』を中心として新しい矜持が生れる事だろう。（大風呂敷で失礼）最後に、編集に何日も夜遅くまで協力してくれた阿南君に御礼を申上げます。

森永英彦

昭和37年度西日本大学ヨット選手権大会成績

37.5.5~6 於 百道海岸 当番校 西南学院大学

・予選A組

A級 1 2 3 計 A級順位

西南学院大学	川岡 大石 野中	上野 7 7 堀内 2 12	川岡 失 0 田代 6 8	上野 1 13 1/4 堀内 3 11	5 1/4	2
岡山大学	清水 楠田 山川	徳田 1 13 1/4 石川 9 5	徳田 2 12 新井 R 3	徳田 4 10 石川 失 0	4 3 1/4	3
広島大学	小川 安藤 伊達	薬師寺 3 11 伊達 5 9	薬師寺 3 11 高橋 4 10	薬師寺 5 9 伊達 2 12	6 2	1
福岡大学	松山 服部 水上	伊藤 6 8 中垣 10 4	山際 7 7 中西 1 13 1/4	中垣 8 6 中西 7 7	4 5 1/4	4
鹿児島大学	今井 吉永 相川	上田 8 6 山田 4 10	山田 5 9 入学 R 3	山田 6 8 入学 R 3	4 1	5

予選

S級 1 2 3 計 S級順位

西南学院大学	有馬 小島 今井 藤原	栗川 1 13 1/4 城戸 4 10	栗川 1 13 1/4 森永 10 4	栗川 1 13 1/4 椋露地 3 11	6 4 3/4	1
岡山大学	赤松 多田 調子	星合 6 8 片岡 8 6	吉田 9 5 三村 6 8	調子 5 9 星合 7 7	4 3	5
広島大学	江副 決谷 吉田	清水 5 9 中井 失 0	山岡 7 7 清水 2 12	清水 4 8 中井 8 4	4 4	4
福岡大学	久保 西本 内野 岩崎	森田 7 7 中村 R 3	天野 3 11 前田 5 9	末松 2 12 天野 9 5	4 7	3
鹿児島大学	塩満 大島	中島 2 10 横山 3 11	林 8 6 横山 4 10	益山 R 3 横山 6 8	5 0	2

総合得点 総合順位

115 4/4	1
86 1/4	5
106 1/4	2
92 1/4	3
91	4

・予選B組 A級 1 2 3 計 A級順位

九州大学	宮田 浜田 坂本 村上 犬塚 長谷川	山中 1 13 1/4 稻田 3 11	吉松 4 10 名田 2 12	岸 1 13 1/4 安藤 2 12	7 1 2/4	1
広島商科大学	内田 高山	池本 6 8 佐々木 R 3	? 6 8 ? 10 4	佐々木 4 10 池本 6 8	4 1	4
鹿児島経済大学	川岸 小園 上川 烟	浜崎 5 9 桐野 7 7	桐野 8 6 松元 9 5	松元 5 9 浜岸 8 6	4 2	3
長崎大学	八木 村田 阿南 谷	浜口 4 10 有浦 2 12	浜口 3 11 有浦 1 13 1/4	林 3 11 増田 R 3	6 0 1/4	2
松山商科大学	大岡 岡村 木目	坂本 9 5 木目 8 6	永井 7 7 富久 5 9	原田 R 3 今井 7 7	3 7	5

S級		1	2	3	計	S級順位	予選 綜合得点	綜合順位
九州大学	折滝 寺井 江口 池上 田中	堺 2 12 中園 5 9	山口 2 12 沼田 5 9	堺 R 3 末兼 2 12	57	2	128 $\frac{2}{4}$	1
広島商科大学	善甫 朝尾	石川 8 6 松島 R 3	? 6 8 ? 9 5	松島 6 8 石川 9 5	35	5	76	5
鹿児島経済大学	永江 平岡 前田	謙田 4 10 山元 6 8	山元 8 6 納 3 11	謙田 5 9 納 7 7	51	3	93	3
長崎大学	矢野 檜林 九富 鹿島 長谷川	江上 1 13 $\frac{1}{4}$ 玉井 R 3	江上 7 7 渋谷 1 13 $\frac{1}{4}$	秋岡 1 13 $\frac{1}{4}$ 福島 3 11	60 $\frac{3}{4}$	1	120 $\frac{4}{4}$	2
松山商科大学	福田 中野	鳥生 7 7 青木 3 11	今村 4 10 笠原 10 4	鳥生 4 10 川上 8 6	48	4	85	4

・決勝

A級		1	2	3	4	計	A級順位
西南学院大学	川岡 大石 野中	上野 6 10 堀内 失 0	上野 2 14 堀内 3 13	上野 3 13 白垣 10 6	上野 5 13 堀内 1 15 $\frac{1}{4}$	84 $\frac{1}{4}$	3
鹿児島経済大学	川畑 小園 村山 前田	浜岸 8 8 桐野 7 9	浜岸 11 5 松元 10 6	桐野 11 5 納 12 4	松元 11 5 納 9 7	49	6
広島大学	伊達 安藤	薬師寺 9 7 高橋 3 13	高橋 9 7 1	伊達 1 15 $\frac{1}{4}$	薬師寺 4 12	93 $\frac{2}{4}$	1
福岡大学	水上 附部 松山 北条	中垣 1 15 $\frac{1}{4}$ 北条 R 3	中西 R 3 吉永 7 9	吉永 8 8 野田 5 11	吉永 8 8 服部 4 12	64 $\frac{1}{4}$	5
九州大学	富田 浜田 長谷川 村上 犬塚 坂本 星野	山中 4 12 稻田 5 11	安藤 8 8 名田 5 11	山中 2 14 岸 7 9	吉松 5 11 岩田 7 9	85	2
長崎大学	八木 村田 阿南 谷	永田 2 14 有浦 10 6	浜口 6 10 山口 4 12	浜口 9 7 有浦 8 8	西山 6 10 小野 10 6	73	4

・決勝

S級

1

2

3

4

計

S級順位

西南学院大学	有馬	栗川 1 15 $\frac{1}{4}$	椋露地 2 14	椋露地 2 14	栗川 4 12	104 $\frac{2}{4}$	1
	今井	永田 2 14					
	小島		城戸 4 12				
	藤原			早川 8 8			
鹿児島経済大学	平岡	山元 3 13	山元 3 13	山元 11 5	山元 R 3	58	6
	永江	鎌田 11 5		鎌田 6 10	鎌田 11 5		
	前田		納 12 4				
広島大学	吉田	中井 12 4		岡 4 12	? 5 11	73	3
	沢谷	清水 4 12	清水 8 8		清水 6 10		
	江副		安田 7 9	村上 9 7			
福岡大学	内野	中村 10 6				69 $\frac{1}{4}$	5
	久保	末松 6 10	森田 1 15 $\frac{1}{4}$	森田 3 13	末松 8 8		
	西本		天野 11 5				
	岩崎			原田 R 3			
九州大学	天野				前田 7 9		
	寺井	中園 7 9		中園 5 11		73	3
	折瀧	堺 9 7		堺 7 9			
	池上		沼田 10 6				
	山口		江口 5 11				
長崎大学	江口				山口 2 14	6	
	田中				末兼 10 6		
	檜林	玉井 8 8		玉井 10 6			
長崎大学	矢野	江上 5 11	江上 9 7		江上 9 7	77 $\frac{1}{4}$	2
	九富		渋谷 6 10	渋谷 1 15 $\frac{1}{4}$	渋谷 3 13		

・決勝順位

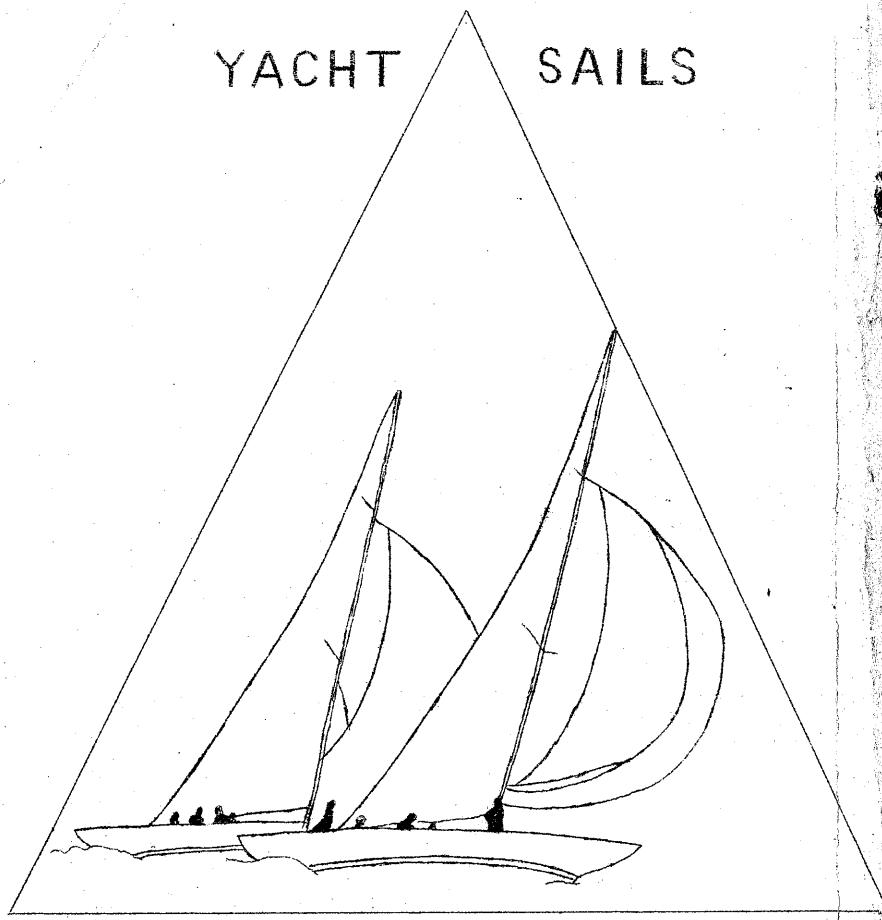
優勝	西南学院大学	S 104 $\frac{2}{4}$	A 84 $\frac{1}{4}$	計 188 $\frac{3}{4}$
準優勝	広島大学	S 73	A 93 $\frac{2}{4}$	計 166 $\frac{2}{4}$
3	九州大学	S 73	A 85	計 158
4	長崎大学	S 77 $\frac{1}{4}$	A 73	計 150 $\frac{1}{4}$
5	福岡大学	S 69 $\frac{1}{4}$	A 64 $\frac{1}{4}$	計 133 $\frac{2}{4}$
6	鹿児島経済大学	S 58	A 49	計 93 $\frac{2}{4}$

<成績表の見方>左より大学名・艇長名・クルー名・順位・得点

「失」は失格「R」はリタイア。

YACHT

SAILS



大原弘山製帆所

横浜市中区本牧三ノ谷15ノ1

TEL ② 8798

Nagasaki University Yacht Club.
noritoshi shibuya.

琴風創刊号 長崎大学ヨット部

昭和三十七年七月十日 発行

印刷所 アケボノ印刷所